



増山守正編輯
陸東系名勝画詞
下巻

ル 4
1685
2



1685
24

續東京名勝畫詞下卷



永代橋

丹波

增山守正

編輯

橋の長き永代かけて霞うらやま 永代
 暮れゆく夕日に霞深き 井上正直
 長き橋の長き永代かけて 全
 夕日に霞深き 吉川順子
 永代の長橋渡る夕日に 西京
 夏と長きぬ袖ながさく 李家隆彦
 暑き日の袖打拵ひ永代 山城
 橋と涼しき風 木村昇齋
 あせのかげくさかな 大和
 永代 宮司宗則
 名所永代橋に夕涼み 山城

溶々漾々水平灣。裾影過橋忙
 往還。富士筑波供指點。白屏顏
 對碧屏顏。 東京 楫取畊堂
 尖寒一脉透衣稜。暮靄全消月
 未昇。篝火映波光幾丈。冰精魚
 上夜漁罾。 長門 國重半山
 塵暑避來江水涯。風清月白步
 遲々。欲知橋上納涼味。兩岸夜
 深人散時。 西京 李家松堂
 橋頭停杖弄春風。暗送絃歌興
 未窮。南望海天無限好。千帆懸
 在淡烟中。 山城 木村昇齋

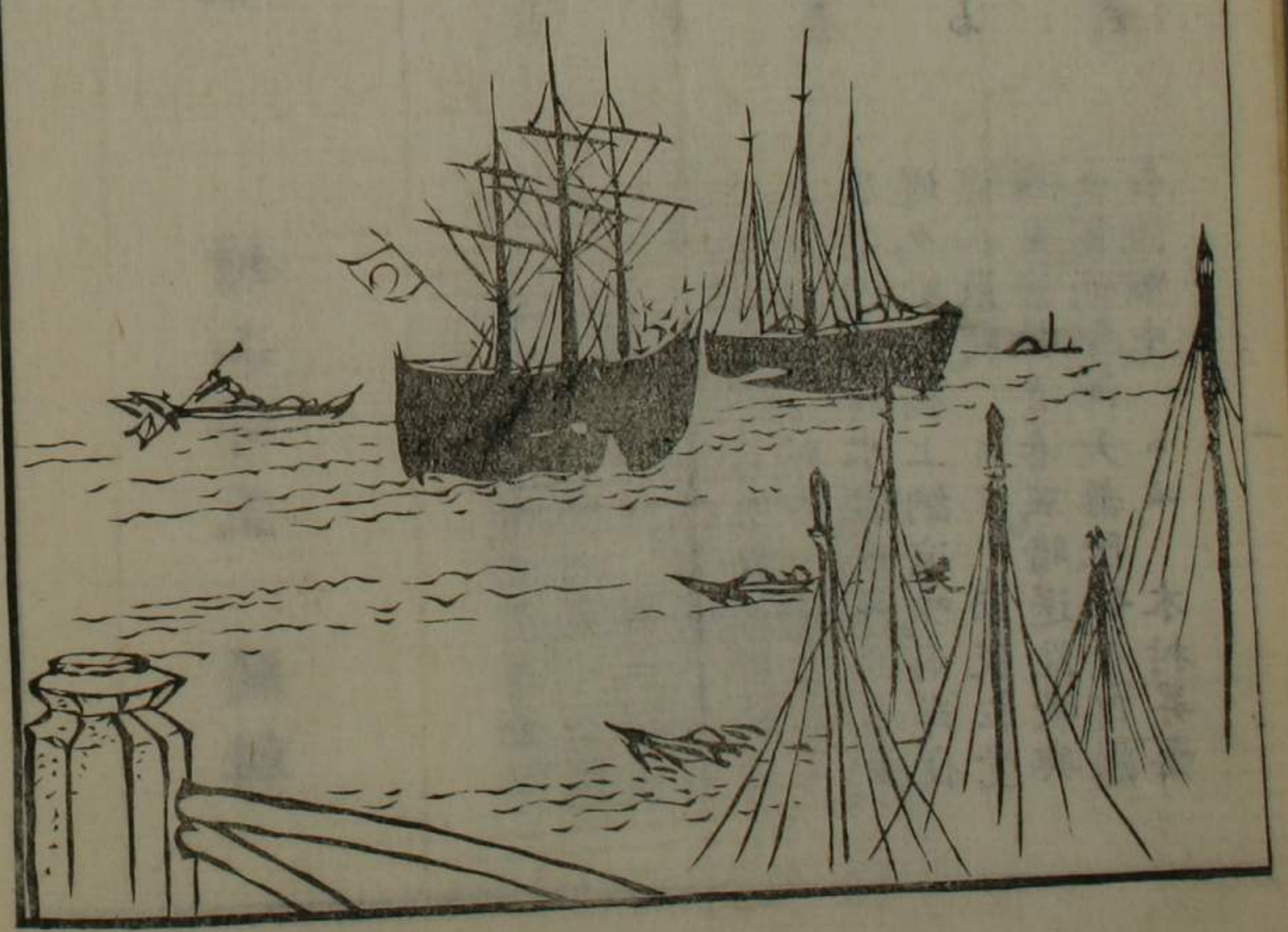
房翠依微芝翠鮮。長虹吞海捲
風烟。經營當見成功日。港泊東
西萬里船。
東京 伊藤橋庵

永き代の橋にいとみて命を付
あつて心と身をよす

山城 安藤經次

其奈炎威如燬何。黃昏浴後向
江河。初知永代橋頭景。不獨清
風明月多。
西京 李家松堂

永き代の名こそ原たる橋のよ
ほきとらぬみ清かろと
山城 宮本守規



永代橋邊海色新。幾千遊客慰
精神。烟霞一抹多幽趣。箇々風
帆自遠臻。
山城 木村昇齋

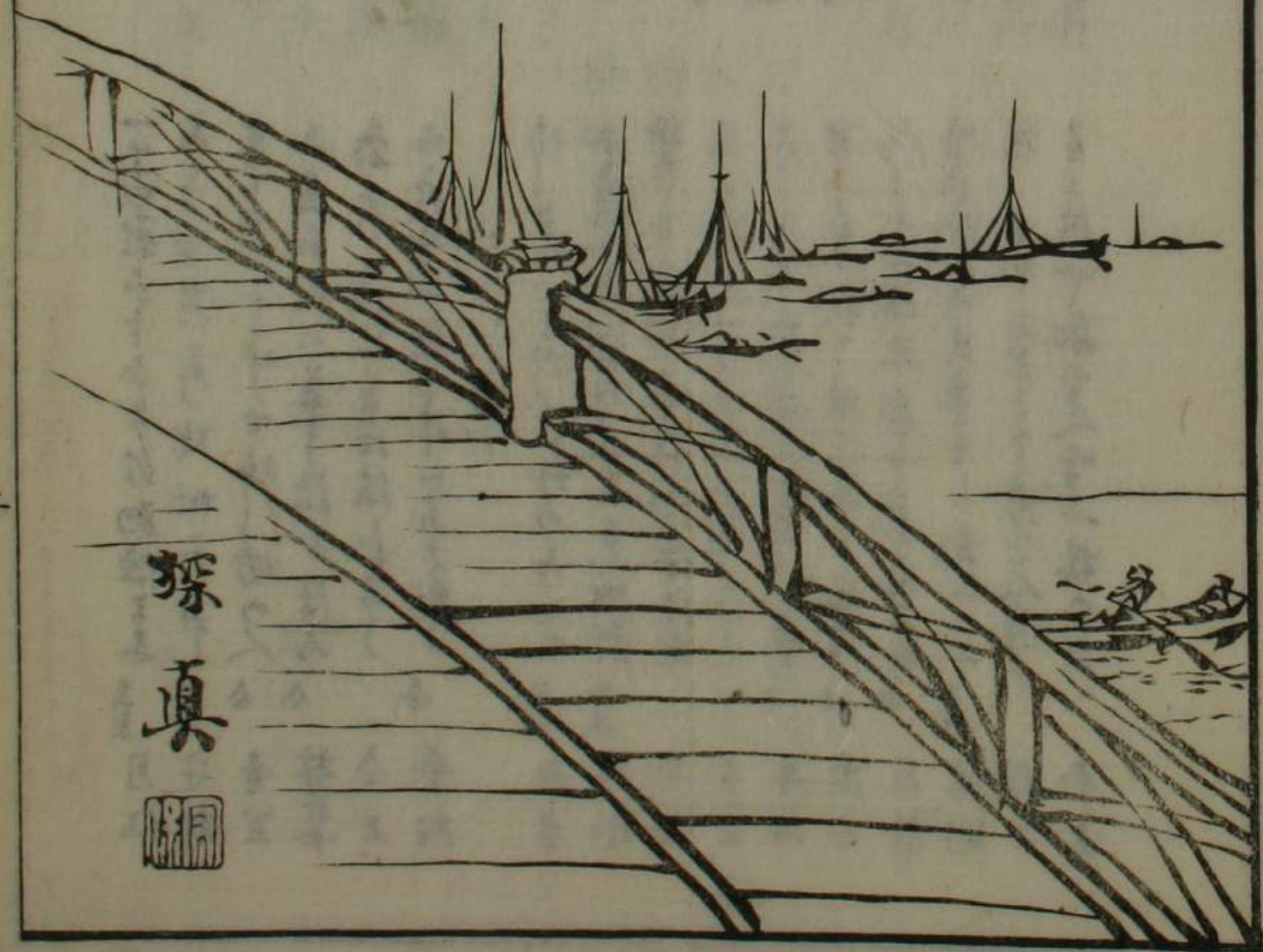
今替し水もかきと海風の
ほきとらぬみ清かろと

全 小河好優

功竣構造比前昌。未霽河虹橋
影長。多少行人無雅俗。霎時停
杖納風涼。
下総 石井頼水

夕ささけの清むくはくちや
無きとらぬみ清かろと

山城 澤井正順



探真
[Red Seal]

夏の夜の内も涼きて橋の上
下り舟れり涼しき

絶百ふらは舟も無きけ橋下
夏代萩のわらわら

富田川の夏は舟のつぎに
涼きて涼しき夏の橋

暫倚橋欄晚景新。輕帆短棹載遊人。
時傳笑語涼風裡。便是方今擊壤民。

必血と己のちを走や舟も無き
涼風やまれて入るる舟帆の帆

夏の夜や橋城の舟も月も
全 上

全 上

一生の暇もなほ舟のつぎに
舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下

舟も無きけ橋下



極目眇茫吳越遥。怒濤高起蹴青霄。遊
人緩急皆隨意。水鳥浮沈悉動搖。一路
火車憑火起。萬船風幟任風飄。海門咫尺
真難廢。千歲長傳永代橋。

いとせうかひて
なからしな舟も無き

橋よりとらふれ
舟も無き

年數無量永代橋。東京第一海門標。士
商續々爭來往。輿馬忽々競晝宵。鶴影
應時雲外閃。魚形隨處水中飄。茫茫萬
里凝眸立。吳越依稀隔水遥。

涼風や所代舟も無き

全 上

永代橋の上を
殊に橋上
夏の夜や舟も無き

百有餘間永代橋。烟波千里接天飄。商
帆白々裝滄海。漁火紅々耀紫霄。阡陌
綺羅疎又密。樓臺歌管通仍遥。房總歷
歷逼芝浦。一髮青山難得描。

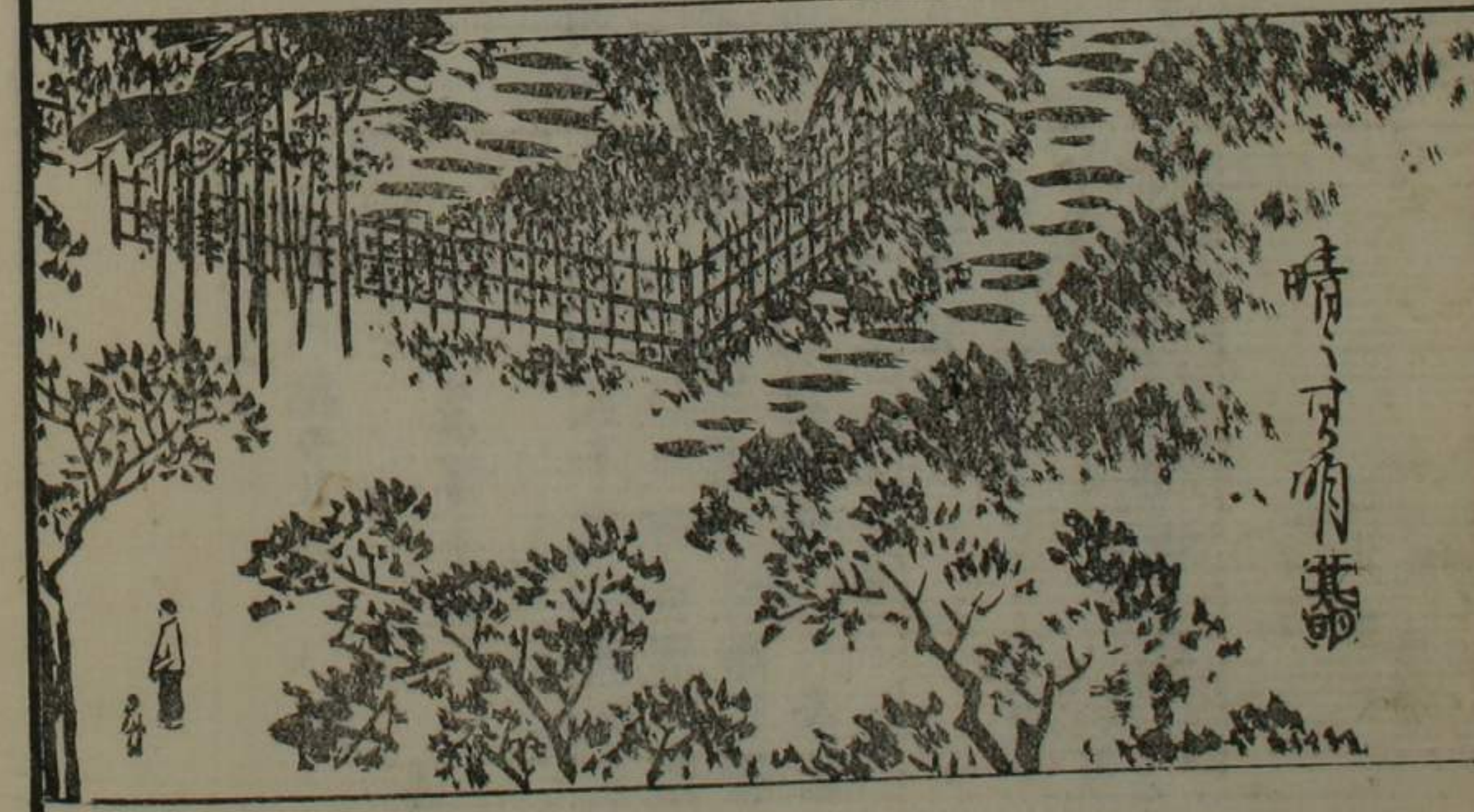
舟も無き

舟も無き

舟も無き

白暮里

子所 田代
種 畑の
末に 鹿
乙之
登下
月代
松平慶永



晴く明き



巽おき
友多
七
本
日
稲葉山
里の名をむ
日
名つけ
子の
歸るさ
里の名
増山洋子

下卷

四

之正しや秋の夕の日は苦志哉 未定 箱葉正邦

其の花秋のふくさのいろあはれ 全 箱葉袖子

かへさるる日とくしの里 全 上

月まじし帰るとも心あはれ哉 全 上

等上格とてこけしんとも 全 三田藤光

あつちてまらぬ極あつちる 全 布施清介

名もあつちる少きそはけり 全 李家隆彦

よのうらふほひもさうらふ 全 李家隆彦

尋ねてきけりもあはれなり 全 李家隆彦

この日さの里にたふさふさ 全 李家隆彦

古寺尋碑度斷岡。溪風野氣轉

荒涼。逢人不問英雄事。只聽茅

烟告夕陽。 東京 伊藤橋庵

日暮里中晝寂寥。不看當日舊

繁鷺。花街柳巷無遊客。徒有春

風弄細腰。 下総 石井頼水

全村有事水畦田。男女插苗齊

並肩。秧綠接天南薰遍。家々閨

曆卜豐年。 上総 井上聚芳

水精花白夜光寒。彎月斜々橫

遠巒。欲聽一聲新社宇。幽情鈎

箔坐更闌。 長門 布施樞宇

紅紫摧殘綠滿城。都人喜聽子規聲。夜來啼破千家夢。霽月中天一片明。 東京 榎村正直

待りてをたるとおれしと都る 山城 小河好優

成茵綠草暖春蕪。漸脫紅塵十丈區。幽趣斯邊須買醉。紫藤花發野人廬。 長門 國重半山

夕月の花の白ひや清しん 山城 宮本守親

細雨蕭々夜未晴。孤燈影暗過三更。枕頭欲結故山夢。復聞杜鵑啼血聲。 山城 西川義延

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

花間對酒弄晴暉。錦繡詩成錦繡圍。禽語啾々日將暮。山情野意客忘歸。 羽後 莊司釋龍

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

日くしの里穠蔭まのり何日 山城 宮本守親

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

苗の青葉に海風涼風 全 北村端敬

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

あつちてまらぬ極あつちる 全 北村端敬

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

付里の名に何とぞ都る 全 小河好優

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

嘘かゝにちかつて帰る 全 小河好優

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

連雨連朝未放晴。棋經獨閱慰幽情。窓前自好蛙三兩。伴我閑吟盡意鳴。 木村昇齋

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

讀書幾歲寓東京。志業蹉跎竟未成。杜宇一宵驚夢去。何堪無限故園情。 全 上

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

書劍多歲在他邦。功業未終憑夜缸。杜宇一聲看不見。半輪殘月上紗窓。 山城 安藤經次

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

功業未終憑夜缸。杜宇一聲看不見。半輪殘月上紗窓。 山城 安藤經次

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

半輪殘月上紗窓。山城 安藤經次

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

山城 安藤經次

夕月の花の白ひや清しん 大和 上野延信

春風に月の出て居るさくらと我
吹さらそ風をかりありあはれ
春風や宵露せし戸はちる梅
春風のあこころをまき田の南
春風に青い色あはれ春田の北
とて日とまきて居ぬる梅の香
花を打ちて先におく胡蝶のま
啼と泣えせし思ひもや春の
送とてうらみ又て美しき春田の北

入おれ鐘待て啼と泣えの郎
勢ひのゆるく又ゆる春田の南
日とてに候とて思ひもや春の
之程降も外の菊あり春の露

春風の口のひさきと月と梅
相忘れそ春風の吹と春田の南
梅田より春田の上れ夕月春
春や田の上の梅もよぬ春の
梅を待たぬ春の宵梅あり春
灯とてせしけし春のまき梅のま

けとてうらみ又て美しき春田の北
花を打ちて先におく胡蝶のま
とや月の照るさかきや春の
春風の通る思ひたし春の
我ひとりけし春のあはれ春の
梅のまきやとてうらみ又て美しき春田の北

春のまつね

あまのこまき
おもしろく
日とてに候とて思ひもや春の

也是東京窓勝名入畔田圃境縦横鴻

臺地對如朋友道灌山隣似弟兄頭上
桃櫻紅白聳眼前麥菜綠黃平絶奇風
景何曾厭日暮村忘日暮情

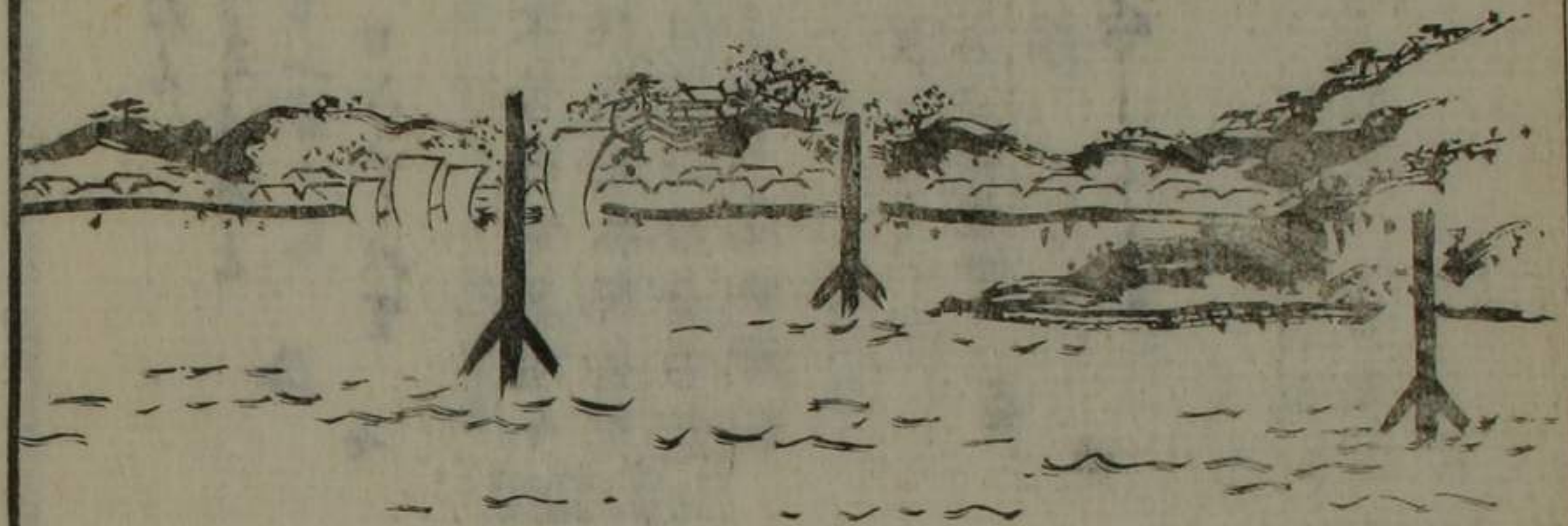
吟節無處不芳春啼鳥啾々似慰人躑
躑櫻桃修性院梅松楊柳里祠神吉原
千住晴烟起筑嶺鴻臺香鬻勻日暮村
中忘日暮遠瞻未盡晚鐘頻

世と梅と春の
いつも日暮れ
里にうらみ
春風にうらみ

吹きたる杖
引ふる日暮の
里の春風
啼くくく

思ひもや春の
世にうらみ
予田田春風を思ひ

海



高末と

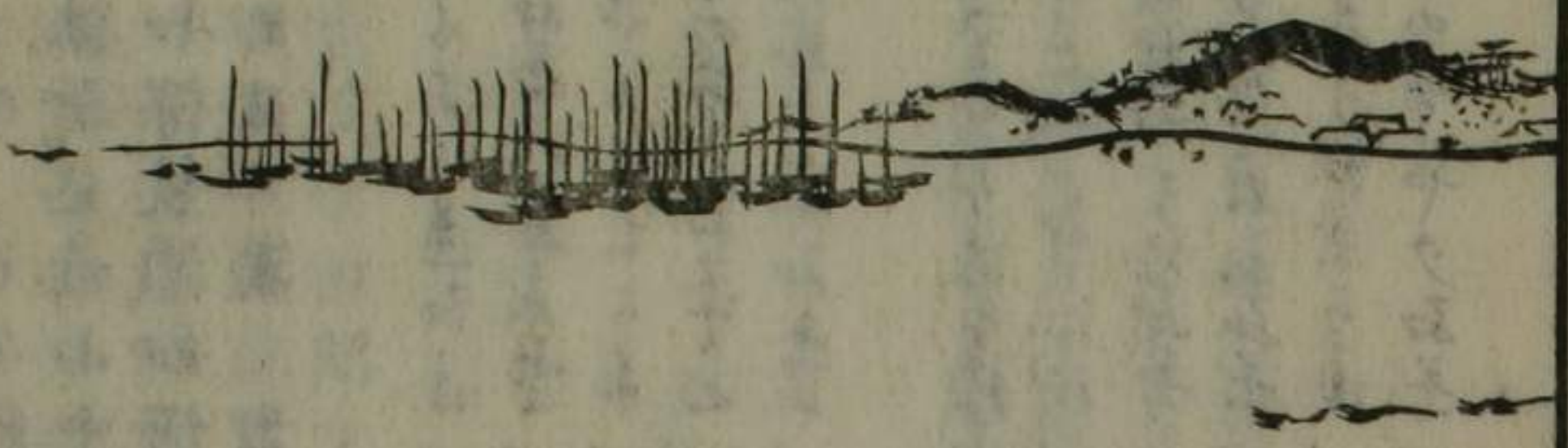
かさねて 秋のいろも

深きそ 又ゆき 山のふちちて

五景 吉川順子

残軀十載遇秋風。慈母墳頭思不窮。只道陀山楓葉好。爭如一掬淚痕紅。
伊藤橋庵

晏寺



秋容染出滿林霜。無限山光欲斷腸。洒墓徐敷紅葉錦。金風吹袂不勝行。
全上

為とくそそをたす本との紅葉に 波の色そよそかりあつたり
五景 大田原一清

石壇露冷蘚苔深。楓樹參差擁梵林。秋入山門紅滿眼。老僧不添菩提心。
全 槇村龍山

石塔石官かすの夢あふし 全 三木雄

海晏寺邊秋色深。停車石逕獨
來尋。倉公冢畔弔魂處。也似霜
楓表赤心。下繼 石井頼水
團霞碎錦滿林新。又是山中霜
後辰。淨界元知停飲酒。如何幾
箇醉楓人。武藏 嵩 古香

夕日さなほ山つゞき秋あけて 長門 村田春信
紅葉の縁色 日さすうらや
かほきとふまきとふまきりや
古たの花にあそびてたのこを 半後 井上唯平
まいつ世をきこくわつるうね

ふ雪の深むらもあつて遠の茶 全 全 全 全
又にゆらふかーお茶れあふ雪 全 全 全 全
昼のの懐言きりもあつて南 全 全 全 全
そやかに沸くこのあるお茶も南 全 全 全 全
昔の日にせぬあつてやお茶山 全 全 全 全
お茶もあつてきりもあつて雪の澄 全 全 全 全
おのこに浴るるお茶もあつて水 全 全 全 全
雪もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全

海晏寺邊紅葉魁。幾千遊客醉顏開。
秋風吹送使人艷。葉々飄然點錦來。
山城 安藤經次
夕風さくけて遠の茶もあつて南 全 全 全 全
深むらのあるお茶もあつて山 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
夕のお茶もあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全

寺稱海晏在高岡。真是品川禪道場。佛
祖法燈年益耀。岩公靈德日彌芳。丹楓
燦々裝樓閣。翠柳妍々護殿堂。極目無
邊船出沒。水天鬢髮是東洋。
編者

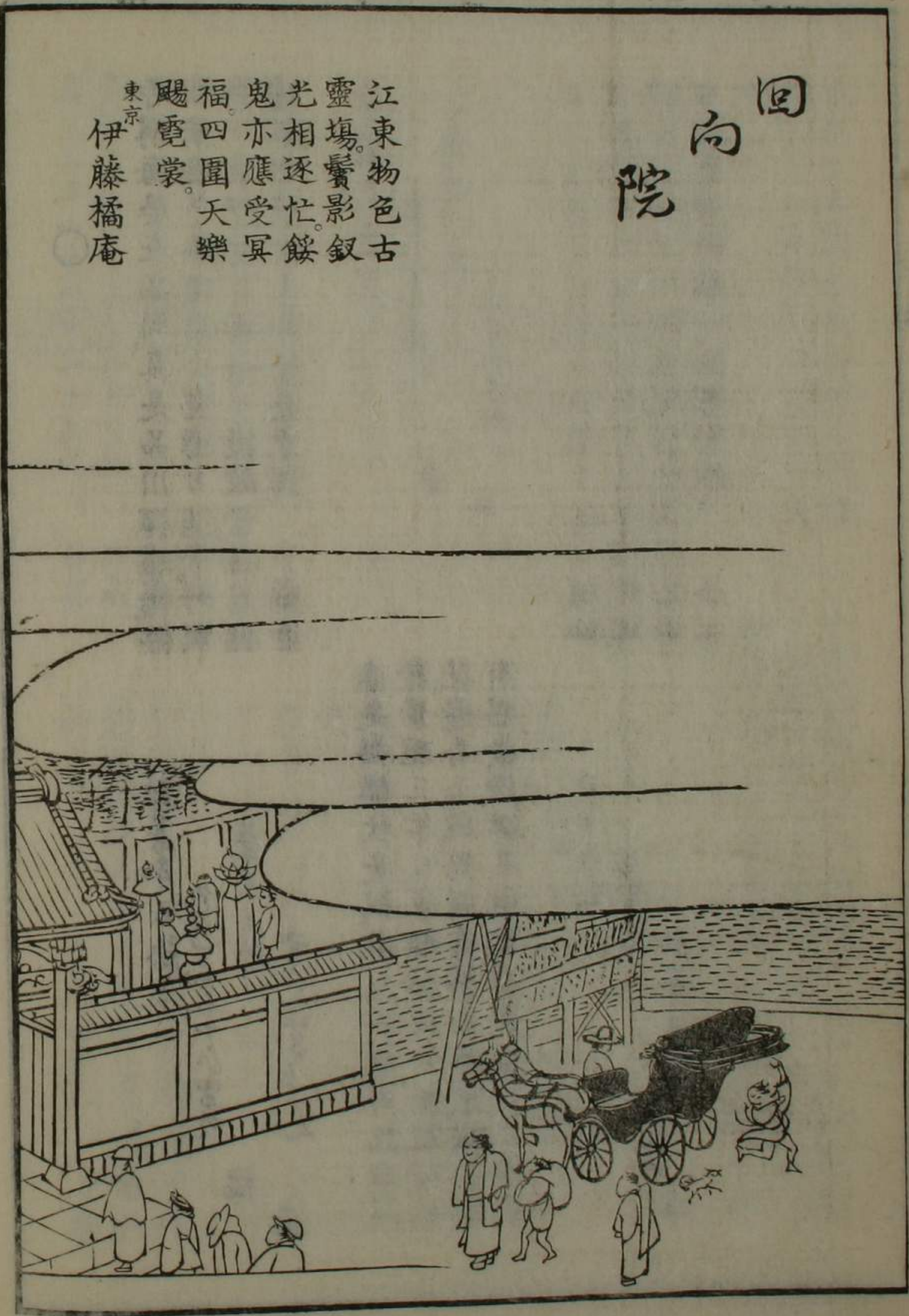
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全
お茶もあつてあつてあつてあつて茶 全 全 全 全

岩公墳墓逗靈威。遺德昭々逐日輝。沙
犬眠邊魚網曬。波鷗泛處客帆歸。纒窺
精舍知禪味。只踏靈場悟佛機。海晏寺
中忘薄暮。丹楓一面赤於緋。
全上

夕日さなほ山つゞき秋あけて 長門 村田春信
紅葉の縁色 日さすうらや
かほきとふまきとふまきりや
古たの花にあそびてたのこを 半後 井上唯平
まいつ世をきこくわつるうね

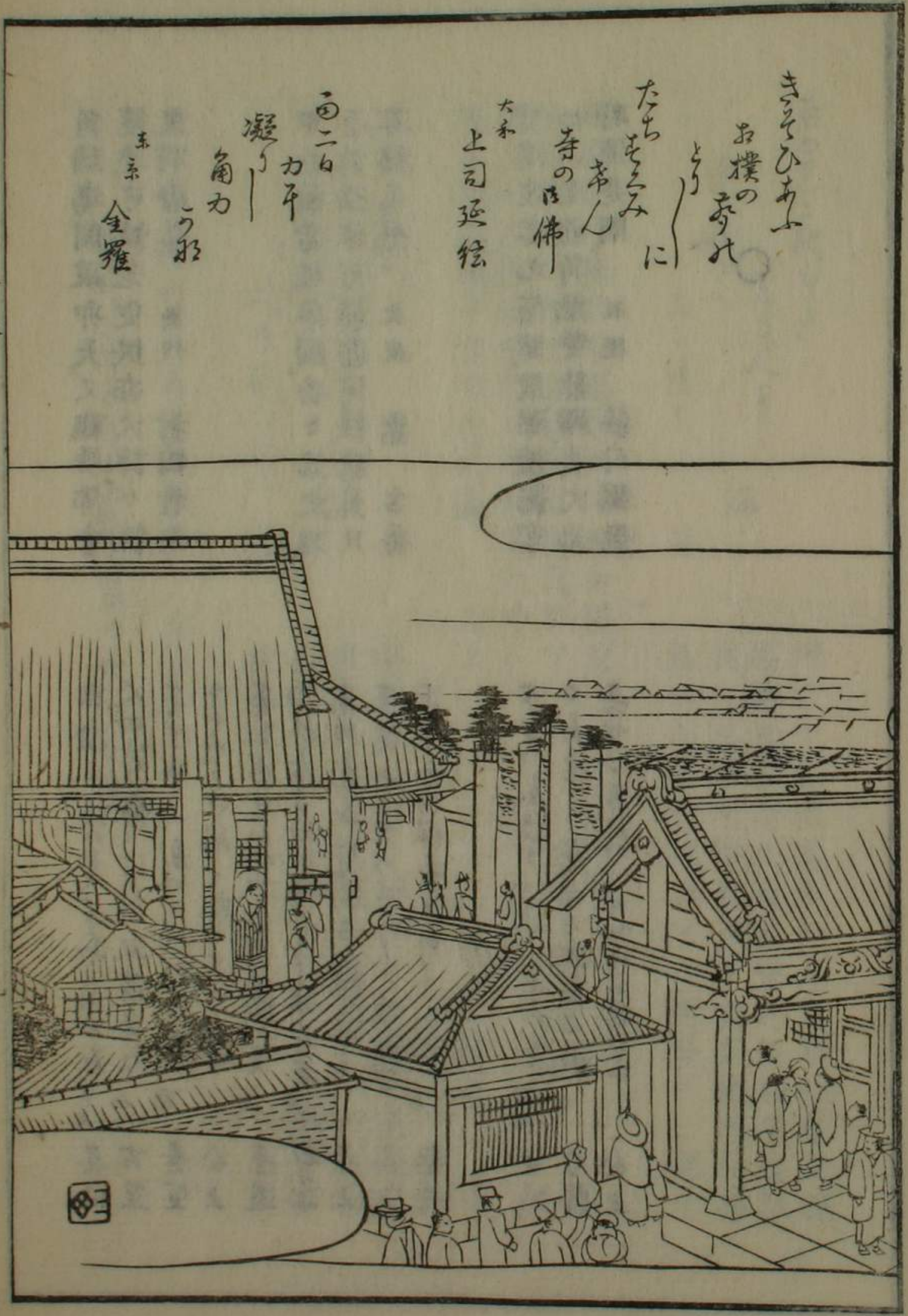
回
向
院

江東物色古
靈場鬢影釵
光相逐忙餒
鬼亦應受冥
福四圍天樂
賜霓裳
東京
伊藤橋庵



きそひあし
お撲の
たらし
寺の
大和
上司延経

二白
カ平
凝
角カ
金羅



角鬪場開破卯天。又觀展佛會
筵連。可憐老叟供香火。諄々說
來明曆年。長門 村田看雨

甲乙相當起與顛。番々活史現
吾前。強非可恃弱何怯。勝負只
存機占先。武藏 嵩 古香

寶閣連雲九陌間。鼓聲幢影客
如山。堂前角觝雙龍躍。香火此
時渾是閑。羽後 莊司釋龍

松瘦とりの多ふまや角力取 五末 吳仙
人の中群に行ぬ傍角力 全 古笠
まてや一息つこれ松の夢 全 青豆
まてよき風も起つてまの夢 全 全上
まてまのやまの角力 全 全上
角力取の上にもある精進日 全 全上
まてやまのたろく 全 全上
まてや坂をりり 全 梅舟

大寺の庭根さへ位一々の出 羽後 吟風
日暮市ハ雀も啼ぬ異 全 月静
まてまの手にの 全 全上

角力己の秋 し

寺の鐘 さ

まの鐘 さ

燒亡十萬化為灰。即是東京明曆災。親
族悲歎收骨去。遠家驚愕斷腸來。追思
歲々塔婆列。供養年々堂宴開。回向聲
轟回向院。靈魂得脫上蓮臺。編者

連鼓誘人觀客爭。場無錐隙鬼神驚。勇
夫如虎拔山勢。力士似龍吞海情。脚下
鐘々砂土迸。拳頭閃々電光生。大呼一
喝占功處。拍手賞音天地轟。全上

下地の響 さ

まの響 さ

人の響 さ

場無錐地客心雄。力士如鷹威氣隆。列
儀入時飄錦帶。遮番濟處執瑠弓。雲龍
石虎拳生火。羅刹金剛脚出風。實々虛
虛爭勝負。聲轟八百八街中。全上

まの響 さ

鬼ひ さ

龍眼寺之秋

露濯籬英滴碧
流一園爽氣愜
人幽。蛩聲巧與
經聲和。織出綺
羅千段秋。
東京伊藤橋庵

於茲此

えいこの
まふひか

まふひか

夕高

おれと

あやや

美一書寫
晴

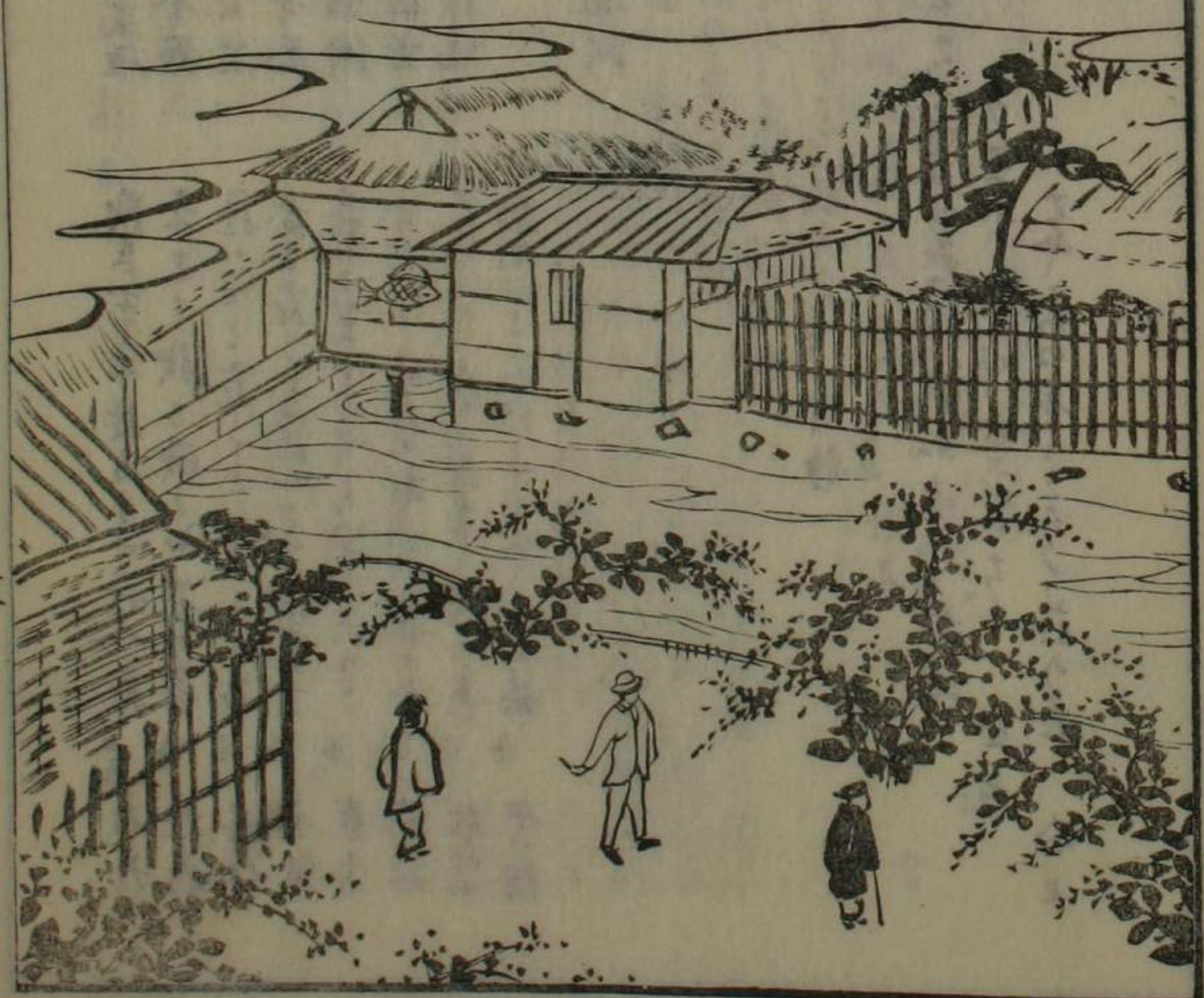


去りて

三田存光

閑雲浸水夕陽
新。佛院詩情自
一家。玲瓏幽香
殊詠先。滿庭開
躡明枝花。
長門 村田看雨

金風搖曳万枝
輕。曉日清勝晚
照明。花帶蟲聲
瓔珞似。莊嚴天
竺古先生。
武藏 嵩 古香



誇つてくもよけてもふむや萩の花 三采雄
萩に風月をわらうとこほれぬ 全 金羅
綾の戸のこまゆまきや萩の花 全 古竺
乞へはあゝ野法師や萩の寺 全 青冝
鷹とては派手男あり萩のま 全 世洲
是徳にあてては萩の暮らうふ 全 松生
籠さしては涙をきうや萩のむ 全 松鳩

萩やてけは降風のほろろ 尾張 羽洲 全上

合巻も萩や 笠山 全上

古里のたよりきかてや萩の花 春有 全上

ふもとくさくさ萩の暮らうふ 月静 全上

と形掃ふ跡ははらへは萩の暮らうふ 朴山 全上

さー迎ふ奥の萩の暮らうふ 柳田 全上

左之へて明日も萩の暮らうふ 全上

夕暮やふたすむ萩の暮らうふ 全上

とや萩の暮らうふとあてて萩の花 全上

八街八百里縦横。過了長江認楚城。天竺花開龍眼寺。隨軍茶馥陣門營。醉人紅色均楓色。雅客吟聲混梵聲。颯々金風吹露氣。胡枝飄散有餘聲。 編者

多き萩の草の

寺ノ類なき

萩にそのれ

さうもはさうや

寺僧栽植最風流。龜井傍邊趣更幽。祖道固無凡俗濁。禪宗既有佛心優。晨曦燦々紅范耀。夕雨妍々白露浮。每歲成群龍眼寺。胡枝花發滿園秋。 全上

さうけつて暮らうふ萩の花 全上

花は名のなきききまもや龍眼寺 全上

全上

秋きさうふ枝もまゝ萩の花 三采雄
萩とて萩とて萩の暮らうふ 全 桂枝
萩の暮らうふとにまゝ萩の暮らうふ 全 吳仙
萩の暮らうふとにまゝ萩の暮らうふ 全 青冝
萩の暮らうふとにまゝ萩の暮らうふ 全 松生
萩の暮らうふとにまゝ萩の暮らうふ 全 松鳩
萩の暮らうふとにまゝ萩の暮らうふ 全 松田

左之へて明日も萩の暮らうふ

ふもとくさくさ萩の暮らうふ

さうもはさうや

けえ思ふさうや

隨軍茶圃自風流。將道東京無匹儔。桔梗依山逢獸碎。女郎靡野向人羞。容姿是讓朶纖細。資性不誇莖屈柔。爛熳胡枝花帶露。愛看龍眼寺中秋。 全上

おのかさきさうや

師の萩の暮らうふ

さうもはさうや

嘆ふたさうや

神 社

靈光不讓象
山看朝賽暮
趨牽衆歡別
有沈淪神濟
否世途風浪
近多難
東京
伊藤橋庵

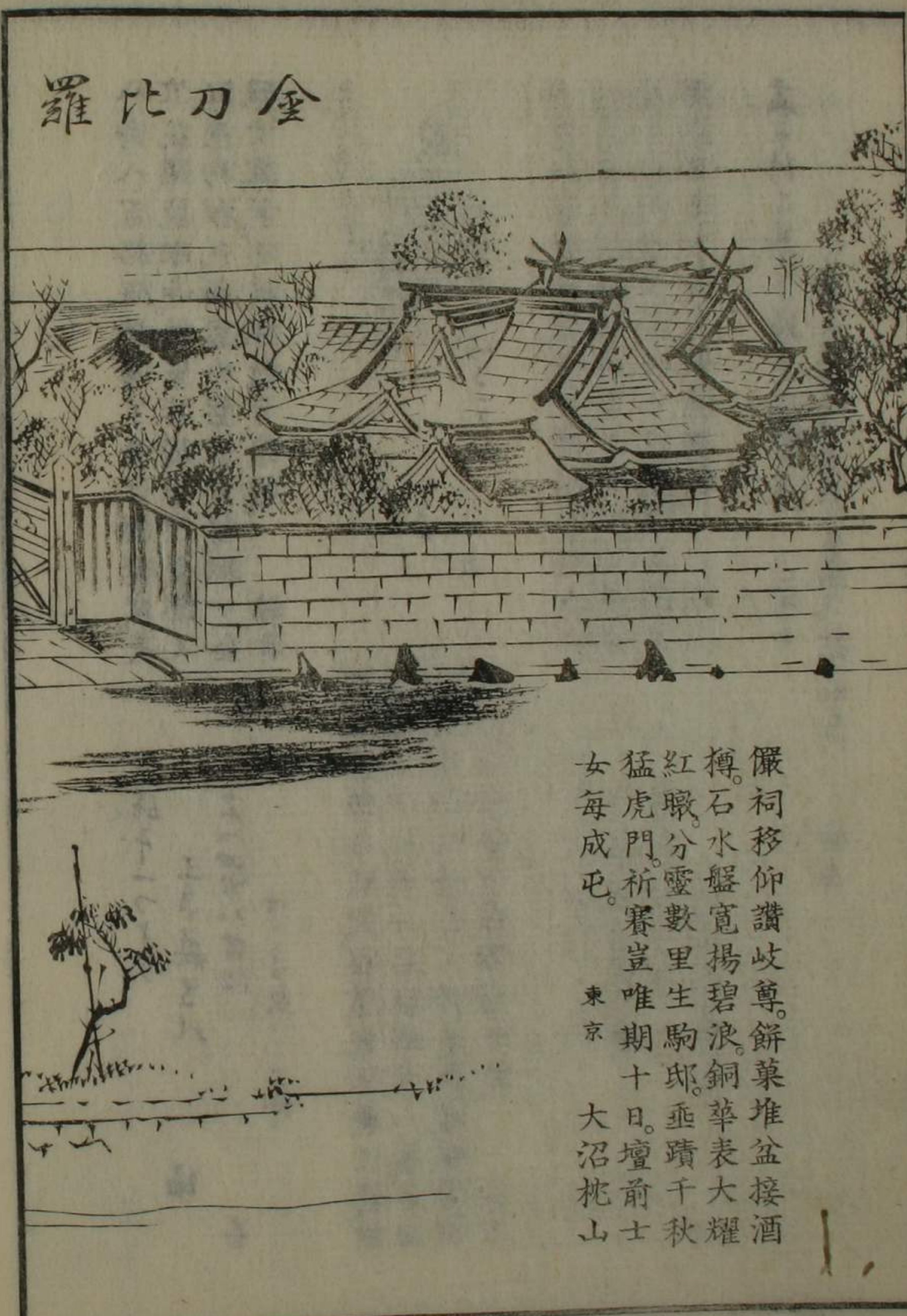
下卷



意
王
田
信

十三

金 刀 比 羅



儼祠移仰讚岐尊。餅菓堆盆接酒
樽。石水盤寬揚碧浪。銅華表大耀
紅。墩分靈數里生駒。垂蹟千秋
猛虎門。祈賽豈唯期十日。壇前士
女每成屯。
東京
大沼枕山

一二編 歸心は 枝より也
 梅咲おぬ 木振毛
 位は 之りた いとぬ
 枝 ありそ 松の影
 夕さくら 松の影
 五五 異仙 全上 全松生 全海平
 五五 稲雄

金碧高耀殿宇新。花開鳥語
 別成春。風光三月春如海。祈福
 賽來千萬人。 長門 村田看雨

早ふ社とよかかよよ月一夜 尾張 羽洲
 乙ふふに何の気もなき 松北 全風
 見ふ松ふなきまきまき月と松 全 蘭石

ん海む宵とらありぬその川 奥巻 喃堂
 昔る月の影言一松の香 甲斐 半松

松の雪松付
 春ふまきこひつゝ
 春ふ松よ 編 者
 ことひられ言 者

詣人陸續四時新。獻品如山寶物春。榮
 與本郷爭倚角。盛均殿巷競洪鈞。利生
 充實千災去。奇瑞層重百福臻。 崇徳
 琴平尤易混。白峯須識是他神。 編者

虎門城外古濠濱。安置琴平一大神。殿
 屋煌々輝旭日。鈴聲續々簇參人。清風
 涼露月明夕。梅雪櫻雲春麗晨。世上誤
 稱 崇徳帝須知大物主尊真。 編者

繁昌不絶四時春。萬禱千祈應驗新。振
 鐸朝宵風韻響。撒錢終日霰聲頻。虎門
 城外車如海。金社場中客似塵。 白嶺
 琴平尤易混。須知異體異魂神。 全上

さうしたふいつも
 縁ふこころひられ 全
 やー松のさくら
 花さき身に幸り 上

聖なる春の風ふえおーむ松う形 全上
 よろーまのふきさき香あり非の松 全上

柳島妙乙堂

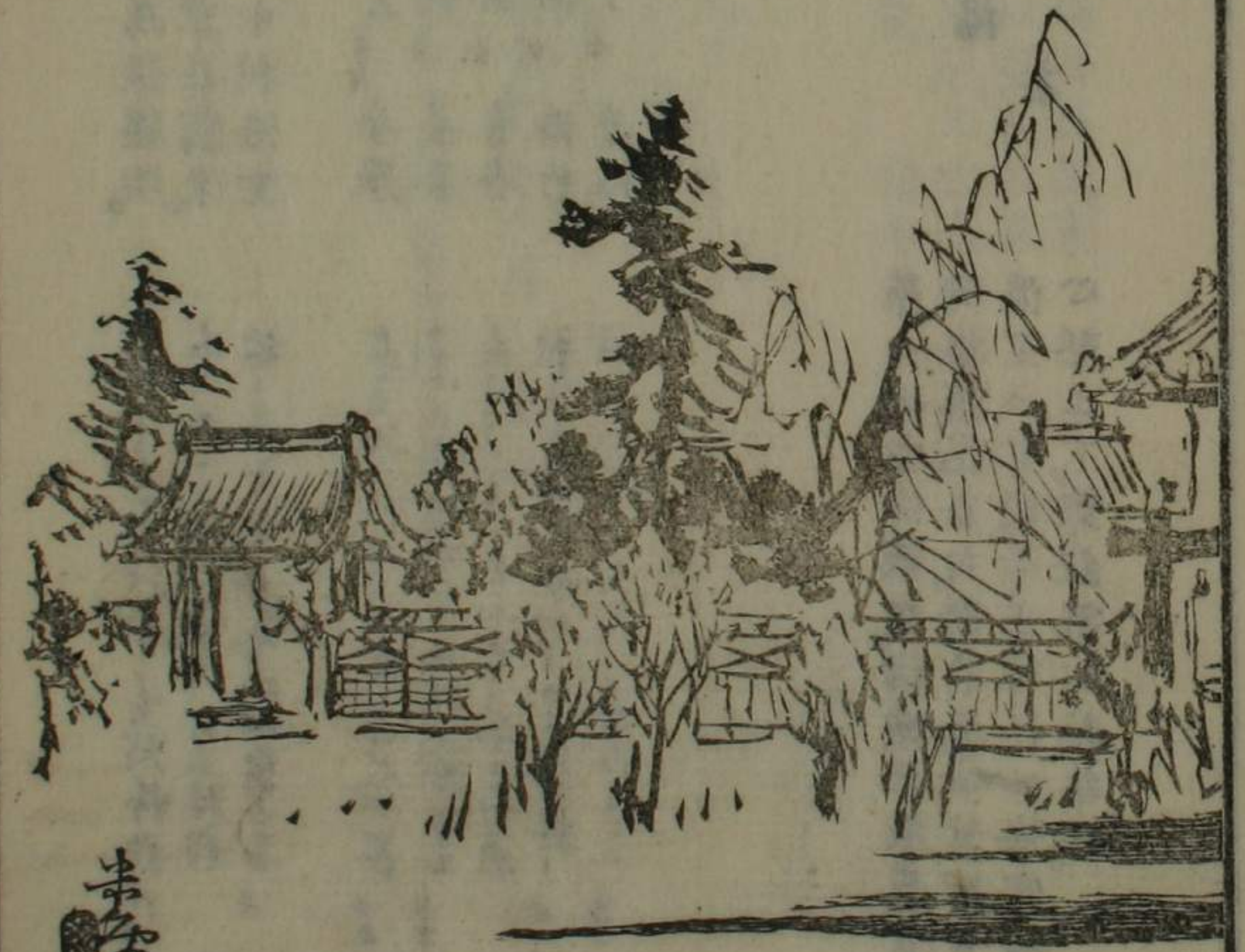
妙法場中見
 妙神欽崇威
 德信愈真花
 邊柳外人如
 堵不異衆星
 拱北辰
 東京
 伊藤橋庵

二之風工



志乃月了
 喜の柳
 子ねも
 三九
 子ねに
 子ね
 福羽美静

秧田
 綠擁數
 家村雨後
 江流半帶渾
 呼酒何妨歸去
 晚扁舟穢在竹籬
 門長門國重半山



下卷

十五

半

十里清江野渡隈。更無車馬漲塵埃。
歸舟一棹潮將落。欸乃聲穿暮靄來。
長門 中村浩堂

春風や四五寸の^春杖吹^去ぬ
日^全の伸^全ぶ^全かり^全ふ^全あり^全し^全柳^全枝^全
春^全風^全も^全絶^全え^全は^全吹^全ら^全し^全柳^全葉^全
松^全と^全て^全く^全人^全と^全かり^全ふ^全ま^全る^全福^全
涼^全き^全や^全門^全の^全柳^全の^全心^全も^全も^全る^全

の^全の^全と^全あ^全れ^全た^全枝^全柳^全枝^全
あ^全の^全の^全こ^全の^全枝^全と^全あ^全ら^全し^全柳^全枝^全
松^全の^全香^全を^全松^全の^全心^全に^全伝^全へ^全る^全ま^全る^全

柳を^全よ^全み^全ふ^全ま^全る^全
寺^全に^全お^全け^全る^全ま^全る^全
館^全の^全音^全の^全
夜^全の^全ま^全る^全ま^全る^全

愚夫婦亦仰威靈。誰識北辰真貴星。祠
畔梅櫻花悉白。門前楊柳葉皆青。信人
偏望全身福。寺主唯祈四海寧。妙法一
心聲上下。鼓鈺敲出藕華經。
編者

鼓析聲喧巨寺庭。同音高唱法華經。東
風弄美櫻雲白。春雨呈嬌柳靄青。因果
生前尤有理。醜妍死後本無形。此堂真
主人知否。即是高天北斗星。
編者

さ^全ら^全し^全た^全ふ^全
い^全つ^全ま^全る^全ま^全る^全
柳^全の^全ま^全る^全
珠^全に^全さ^全え^全る^全の^全
花^全に^全さ^全え^全る^全
さ^全か^全り^全は^全
全

柳^全を^全よ^全み^全ふ^全ま^全る^全
館^全の^全音^全の^全
夜^全の^全ま^全る^全ま^全る^全
柳^全の^全ま^全る^全ま^全る^全
館^全の^全音^全の^全
夜^全の^全ま^全る^全ま^全る^全

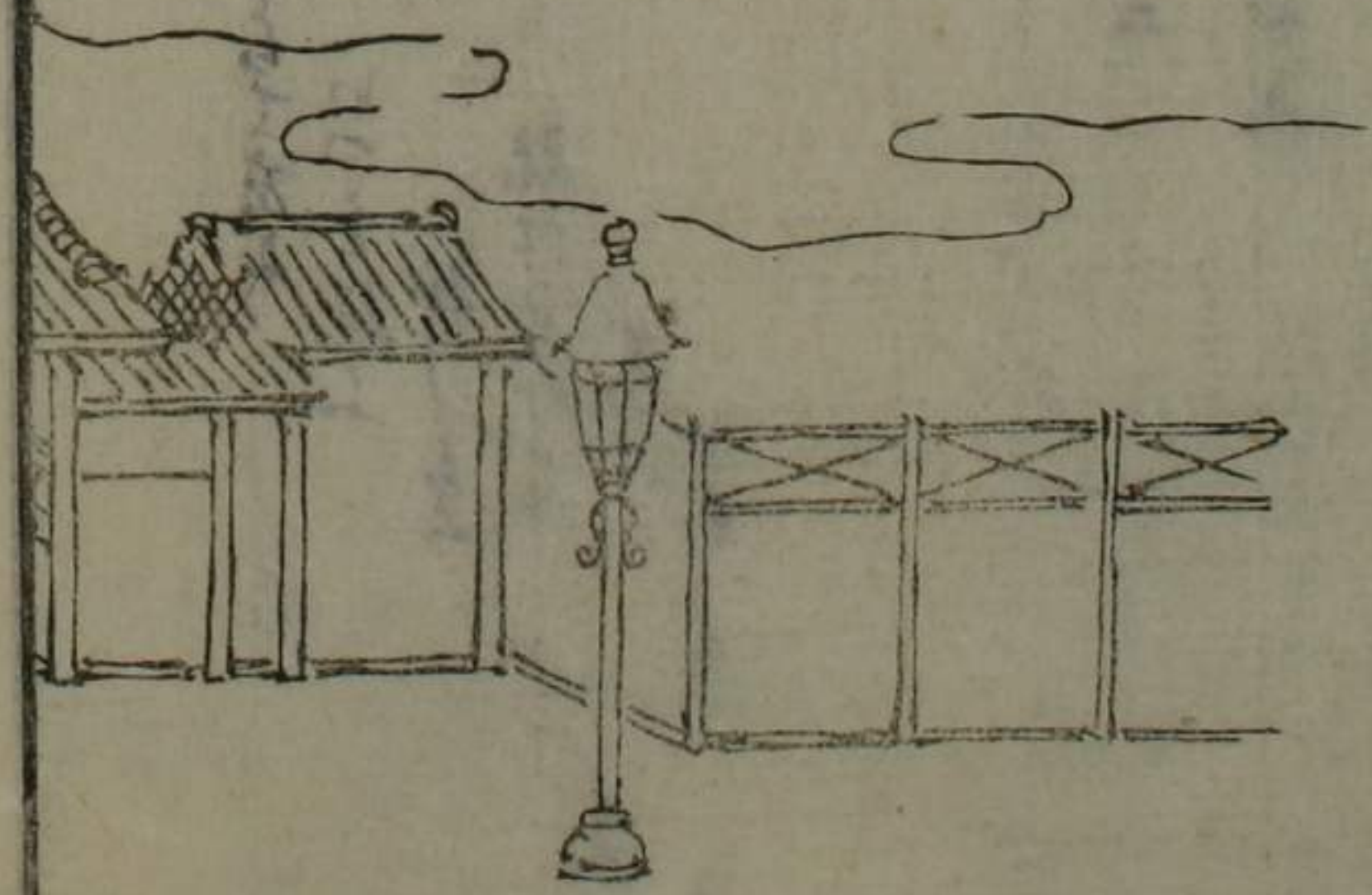
水王宮

神德不孤人似梭。休言福利枉
蹉跎。由來慾海多沈溺。擁護冥
冥奈汝何。
東京 伊藤橋庵

水王宮
てきふし
つらきもの

人の居る所

夢せぬ自見ふ
西三 務姓



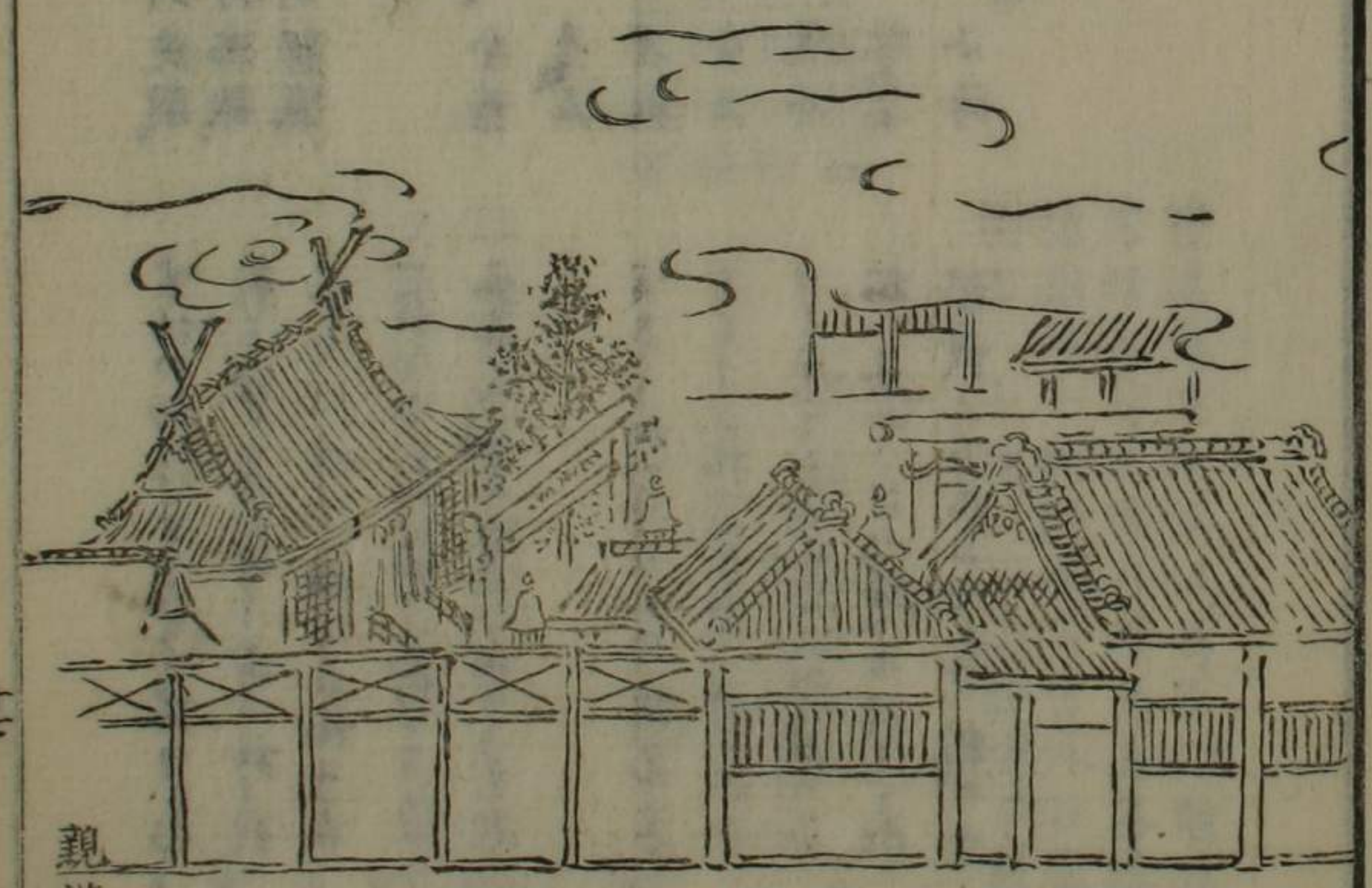
ひかり
さやかみ

白く光る

月ころを

箱葉承子

觀場貨肆接軒
開。厚幣大錢山
似堆。自合繁華
推第一。三千里
外賽人來。
長門 村田看雨



觀謹寫

鹽湫爭先上玉壇。香祈情願到更闌。
神符隨處多靈驗。護否吾曹行路難。
羽後 莊司禪龍

風と輕く手経す柳うな 全 羅
まきくしのたまえそらう極朱跡 全 素石
蹄里あつ旬ひや梅の船浮らけ 全 吳仙
年暮り吹まにぞらう春の風 全 上
手城一の老も嘘しる月の有 全 若芥
せも又旬よものあつ月の秋 全 梅花女
月悲一せとおひの程に 全 小沙

室垣の神ほろひる梅の花 尾張 羽後
影うけて肩かゆくあつ梅の枝 全 金風
なかに伸て舞まき梅の南 全 月静
一枝とわれいひゆる柳うな 河内 如月
初夢と抱みも底さぬうそ我 甲斐 半松

嘆きしね四やりの梅えま 山城 梅圃
まふく梅てて底の月お我 全 上
日と若て出かたも人や梅の香 全 上
梅の香や空の梅もほき 全 柳池
風幾とたひふ旬や梅の香 全 上

この言此衆の
日にい遠近の

人平は本か 編
所せと一て 女

符逗威靈救溺氓。馬車如織跡縱橫。
男婦集皆呈願。貴賤鳧分各訴情。
德廟前千物積。水天宮外百塵盈。
街市人充塞。四面紛塵望不窮。
編者

吉凶禍福渺茫中。世事靜觀如塞翁。
海孤哉 安德帝。東軍誰也義經公。
回頭猛虎終無跡。屈指潛龍却有功。
昭々千歲盛。人波捲到水天宮。
編者

ふり親とまきよ 全
さうほう 全
人のつとひ 上

おあつて海茶のまき月おらう南 全 上
吹伸るやうに梅の發き 全 上

月毎にかくまわ 全
いつる所 全
いらかの神の 全
うけ代やま屋 上

待乳山

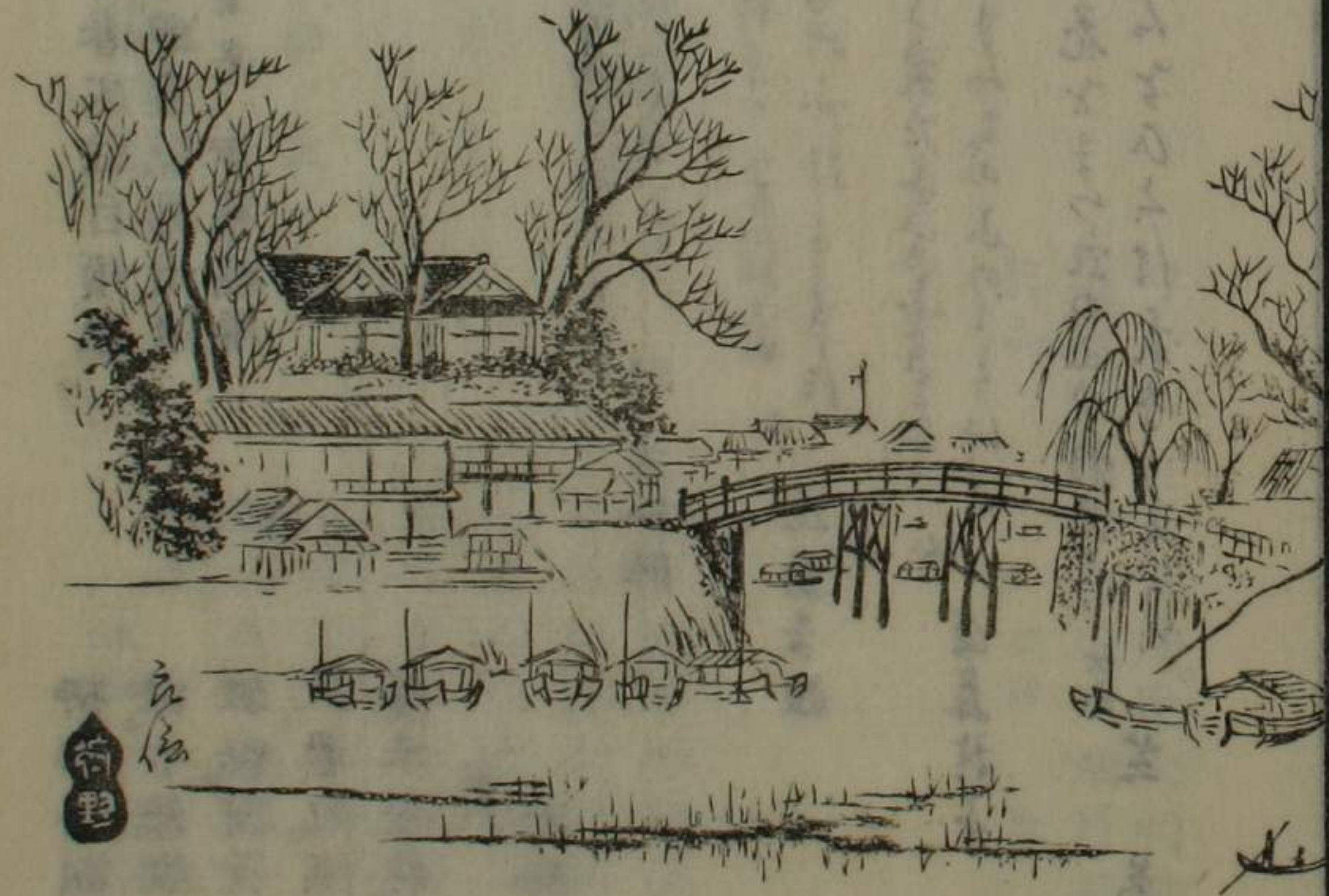
夕度林邱宿墨田。古人韻蹟夢茫然。風情不似當時憾。兩岸弦歌伴獨眠。
東京 伊藤橋庵

くう人を
まつちれ
山の花
ちきり
建くは
こなた
とくに
福羽美静



金龍山色映吟
筵塵熱何曾到
酒邊。陳々風從
蘋末起。一帆涼
渡暮江船。
長門 國重半山

涼風と
まつちれ
山の香
白心
そなた
新月の影
五末
本在字法



秋波媚
滿隄花謝暮江幽。悵望繞林邱。青春不駐。白頭難
滌。逝水間鷗。遨遊憶昔伴溫柔。醉裏說揚州。流
光如夢。離々綠怨。剪々紅愁。
東京 伊藤橋庵

柳際掃欄管遠
瞻水龍輕露曉
波恬應齊春閨
久晏起隔岸樓
臺未揭簾

待

乳山

頭枕墨

川堤花襯

水簇香煙漫

招梅穉怨魂去

欲伴無量歡喜天

東京 大久保取齋

舟うけて今戸の岸を渡るれば
まじけのさたりとてひま啼あり
佳木弘綱

こよひまじり更りまじりもふかぬ
泣とまじりちれ山ほろろき
追尋存菴

をまじりて霞たふひきききき
まじりちれの山のうけさ
追尋存菴

咲花をまじり乳の山の影を
んをひきき霞たうり
古 葛中

待乳山頭西又東。煙接幾樹咲
春風如斯韶景使人艷。都在清
香萬斛中。
山城 木村昇齋

向子求新立暮灣。聖天祠畔落潮
間。誰將絃曲添風致。烟月黃昏待
乳山。
武藏 嵩 古香

雪ふれと名き唐の待乳山
第一、おぬ活るま風
お塵と掃の糸は待乳山
史のまらまの風を吹きた
待乳山有待居まらまの
之んまらまをまらまらり
もちのまらまらまらまら
みても待乳の山の影あり
宮本守初
全 上
全 上
小村端敬

暎來把酒踞胡床。暎点
殊風思轉長。昨夢難尋
紅杏影。新愁易惹白蘋
香。城中客尚趁殘熱。渡
口鷗先占早涼。千古食
龍山畔月。愧無一句答
清光。
越後 吉川六石

朝來踏雪意尤嘉。八字鞋痕沿路斜。待乳山頭風景好。幽光散處認梅花。

山城

安藤經次

待人を月もまらち此山の懐哉

甲斐ありかほりのほりこそまをれ

山城

小村深敬

面杖啼く夕暮や乳山まま 白石
涼風の吹おろしけりら坂全 詩竹
峯のまよふも若ふまは月の秋全 秋帯女
まよふとついでや乳山全 採花女
塵をのりぬるもまよふのまよふ全 一清
待客のまよふもまよふのまよふ全 芳律

まよふとついでまよふまよふのまよふ全 柳我山城 石原
涼のちやうなまよふのまよふ全 相屋 金風
願ふまよふまよふのまよふ全 清松
まよふとついでまよふまよふのまよふ全 月雅
塵のまよふまよふのまよふ全 月雅
待客のまよふまよふのまよふ全 芳律

非佛ふちも

三つ待乳山

三つ待乳山

新ふり

編者

待乳山頭待乳兒。賽人群集失親時。皚皚泛水鷺鷗羽。嫋々舞風楊柳絲。一對峯疑頭上聳。五層塔喜眼中移。是神是佛吾何問。只愛名區眺望奇。

編者

全龍山上望無窮。妙景誰描造化工。墨水長流雙脚底。筑波高嶺寸眸中。娟々遠掛櫻花月。嫋々近吹楊柳風。歡喜祠前歡喜客。子來雲集聖天宮。

全上

まよふまよふ

ふらふらまよふ

まよふまよふ

山さくら花

全

上

四方八方の海も

つきと待乳山

福てとふの

人もまたたり

全

上

四望隨情地設園。高岡安置聖天尊。賽人爭競珍奇法。詣客齊歌歡喜門。柳黛娟々邀暮月。櫻顏燦々待朝暎。金龍出現茲山底。真是千秋妙道源。

全上

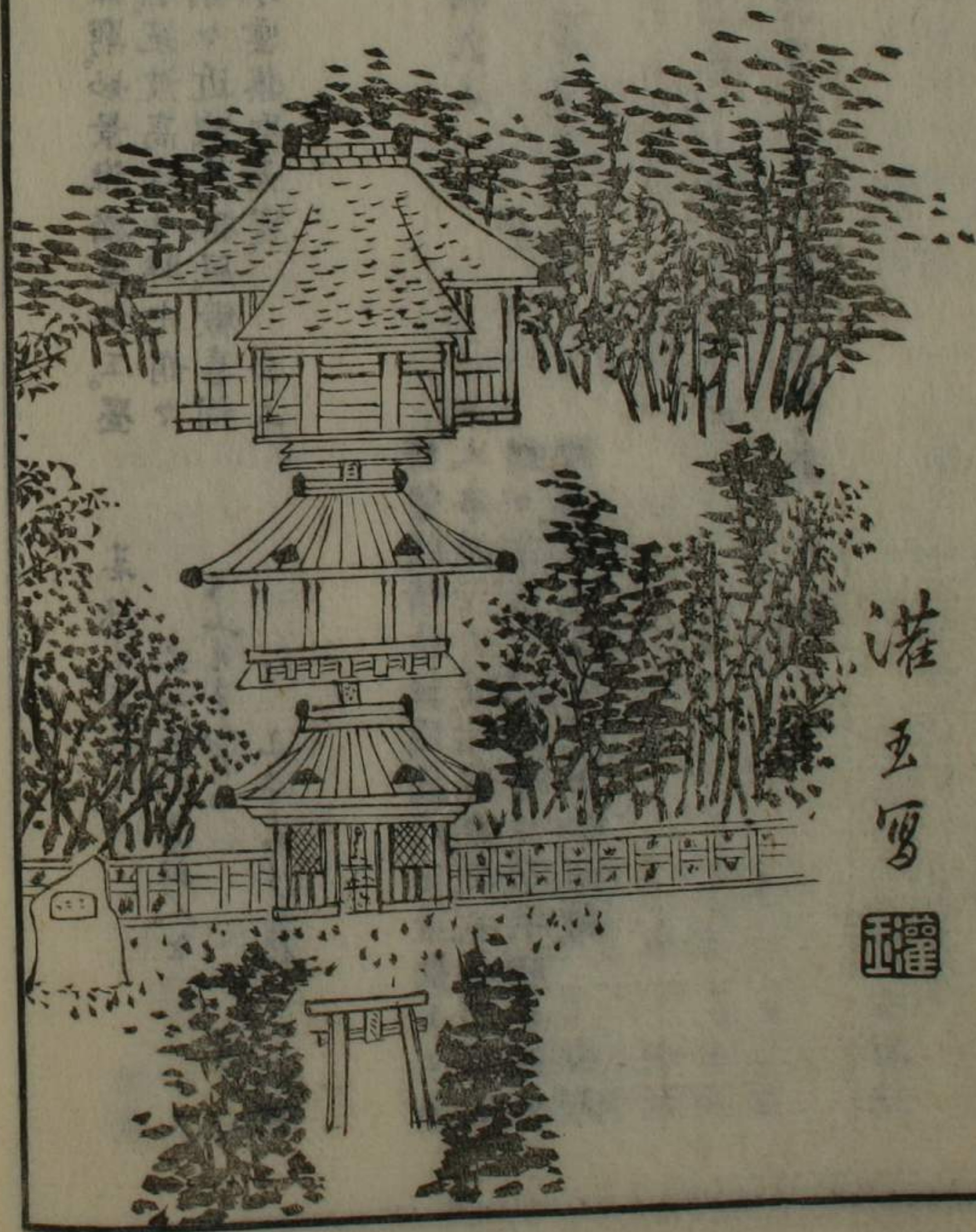
柳ころる風の舞ふと思ふまじり

全上

園の花も終まぬ梅の白ひり形

全上

王子神



灌五写



社



遊客肩摩乘快晴。響空汽笛發車聲。東台鐵道連王子。半日看來兩地櫻。

東京

植村龍山

松ちりり

ねろろ

さひい

き

松平

志

かへり

かへり

東京 松平慶永

まうてきてほろもらふ非かき

ふかき末法にさけりきり

東京 福羽英静

花光鳥影舊情催。獨坐思詩掃翠苔。但厭幽閑歸慘澹。煤煙暴壓彩霞來。
東京 伊藤播庵

獨坐書齋詩未成。磨他敲押太多情。流鶯亦似報春信。聞得林梢第一聲。
山城 安藤經次

雨打風

淺の川花多の山の花多茶 茶
この市社の老こ茶そへ

近藤孝直

推昏寂

老茶多の茶多になくとも茶こへ 山城

安藤經次

子語猶嬌看

ちや梅々枝に末竹号

平蕙樹緑陰底

春ゆき言井の梅小茶も 今

一黙杖頭紅朱鎖

非の直さうけし修らん

茶井甚平

長門 山縣通處

花に咲つて花びら 茶

む花堅く坐茶の梅 茶

浩あ 茶

茶や庵に待つ日 茶

さふ末に疎け 茶

茶やこち 茶

茶の 茶

瑞籬や 茶

花 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

け 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

茶 茶

下巻

廿三

そともらぶの老るや部
招風扇のなほたき
耳にこけたる眼鏡
さよとてをたてし月のあし
ぬれぬともしく踊羅
すもなき塩の廻りこれた
勢い世世のつとよき人
何かぬと何れも風塵
身にこかすもよきも
隠し釘つけて口は切
秋さしれぬとぞとぞ
祝ひてつけてさし
おまの錦のつとよの
起るなすたのつとよの
五の塔のつとよの
花やかみそに子等
風をさすけのつとよ

全羅 丹 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊

さよとてのつとよの
送ひしきさる山
古くは史に
恒樂のつとよの
何となく
初涼のつとよの
ひよろると
はに息に
このよと
探も
から
艶
葉
掌に
思ひ
侍
そ

全羅 丹 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊 菴 莊

松杉鬱々緑陰中。賽客如雲德望崇。
寶殿暉々祥日映。樓門轟々瑞雲籠。楓
遊直與瀧川接。櫻賞斜從飛鳥通。王子
真身人識否。尊哉 天照大神宮。

王子の
村名に
子代
編者

編者

日中か
於此
人み
澄

西北神祠第一評。櫻雲梅雪互縦横。山
隣飛鳥似唇齒。地接稻荷如兄弟。朱彩
樓門驚眼目。奇工堂殿感心情。神靈赫
赫幾曾滅。村號長傳 王子名。編者

赫々威靈鎮一村。々々欽仰是天孫。
巍々大殿青蕙屋。轟々高樓朱彩門。鈴
韻連綿澄客耳。松聲不絶洗人魂。單稱
王子有誰惑。可識此神無上尊。

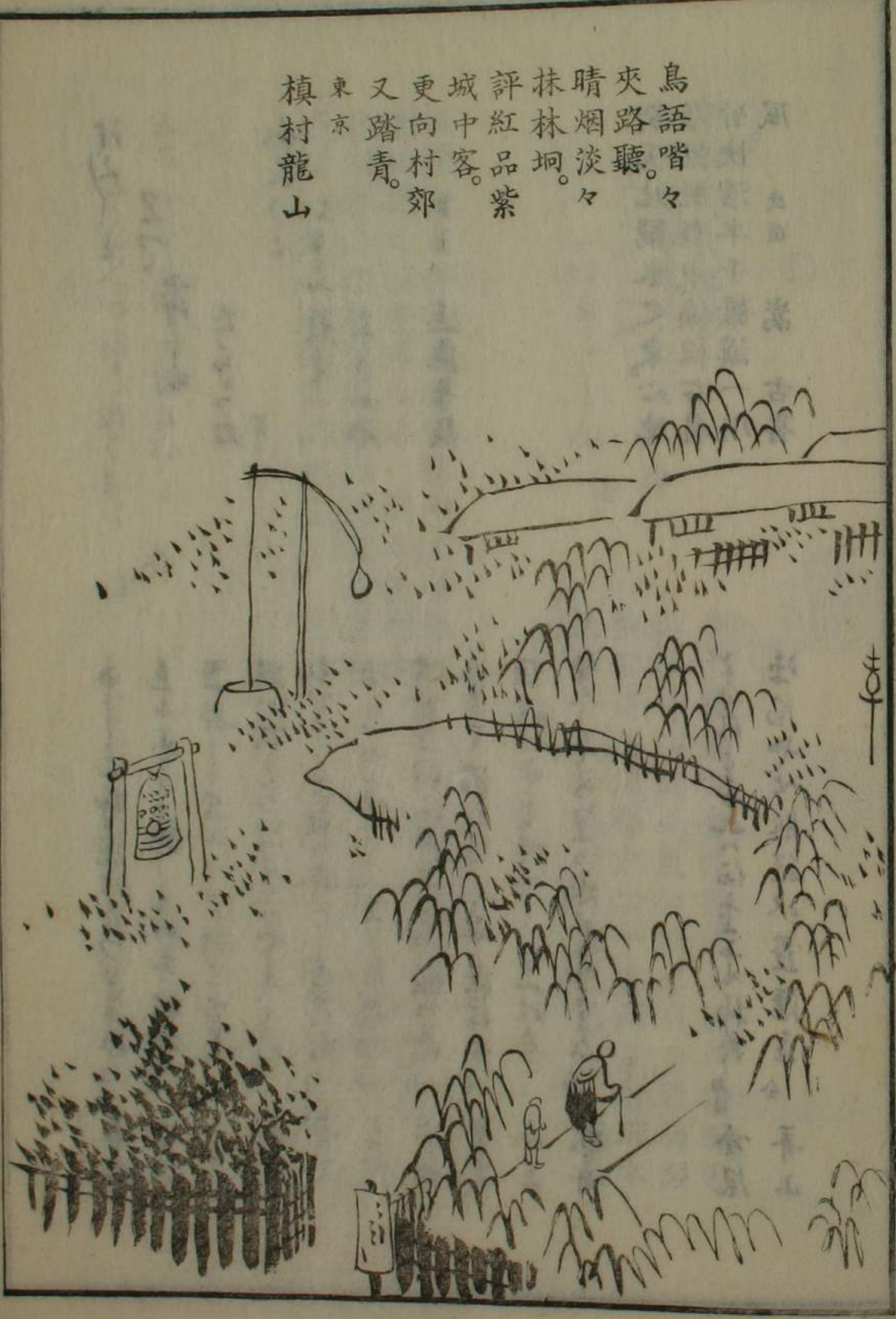
大庭に
善の
人の
全上

皇不
たろみ
耐

月
そま
耐

全上

鳥語啾々
夾路聽々
晴烟淡々
抹林炯々
評紅品紫
城中客
更向村郊
又踏青
東京
禎村龍山

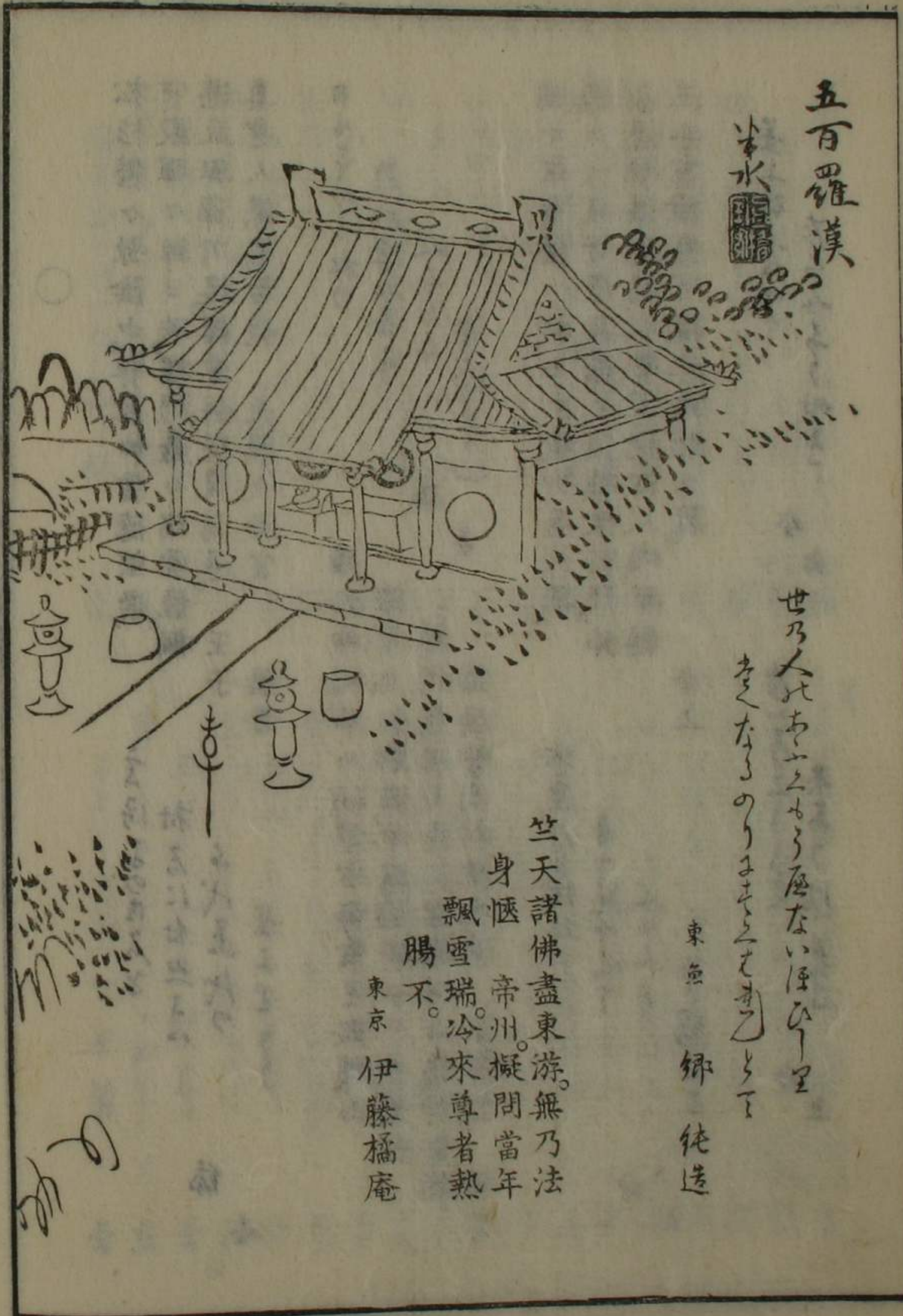


下卷

三

五百羅漢

半水



世乃人此あつてもう歴ないほひり
ききたるのうまるとも乙と下

東京 郷 純造

竺天諸佛盡東游。無乃法
身愜 帝州擬問當年
飄雪瑞冷來尊者熱
腸不
東京 伊藤橋庵

清く

とて

ゆけと

たらしむ

似たり

おもひ

あきか

ま

近藤寺

別天地關水之東。心地
居然脱甌中。偏袒右肩
皆快活。半千羅漢一川
風。武藏 高古香

承しと梅梅にたつ日ら那尋香

色小香千舞仙

夢外一星上もよけ玉

松一枝生ついで湖月

むつり青

涼風のあつ古

古社を伐らぬ守静

ふま雲

煩惱の雲全

ま全

よ全

涼風や全

さしに佛の

徳を

ち

一つ

編者

半千羅漢古香露。菩薩之餘所仰瞻。形
似怪奇胸固正。氣如放恣戒全嚴。誦經
純粹老幼混。導衆公平貴賤有破本
來無一物。玲瓏心月法光添。編者

五百

佛に

全

全

回頭今古佛宗昌。禪法就中尤擴張。暗
號妙機玄味遠。單刀直入道心長。衆生
普濟釋迦像。教外別傳羅漢堂。聞説菩
提皆一致。半千尊者滿棚光。全上

五百

佛の

全

下卷

廿六

品川神社

お南もやうな

わうまて

ふら

品川と

たうげ

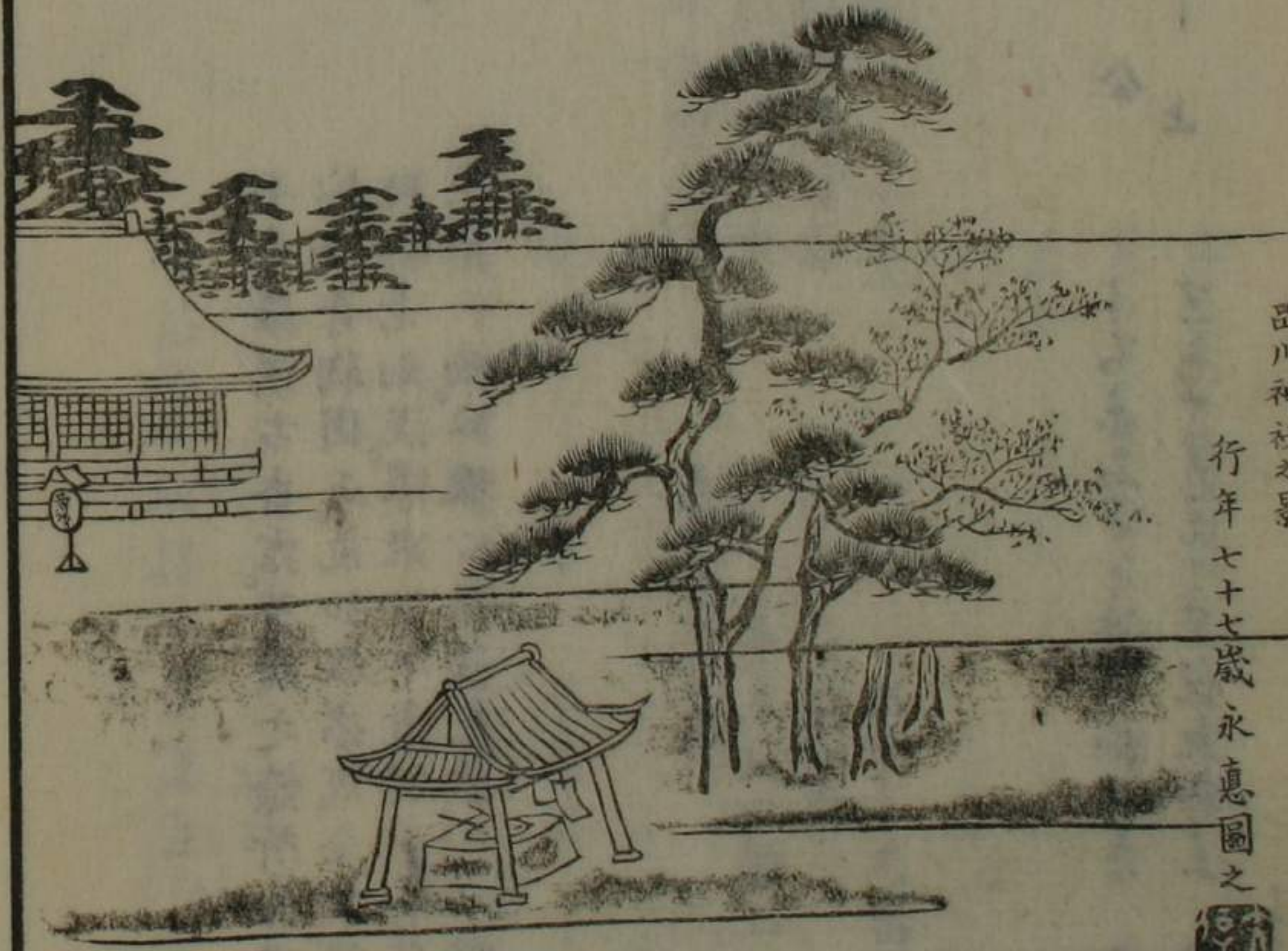
ちり

まじ

ふむ

稲葉正邦

芝海嵐光房總
 烟神鍾秀氣倚
 高巔棄材或被
 山靈寵起臥清
 陰二十年



品川神社之景
 行年七十七歲 永惠圖之



東京 伊藤橋庵

かよふぬ社

つと

松うけ

品川の

いな

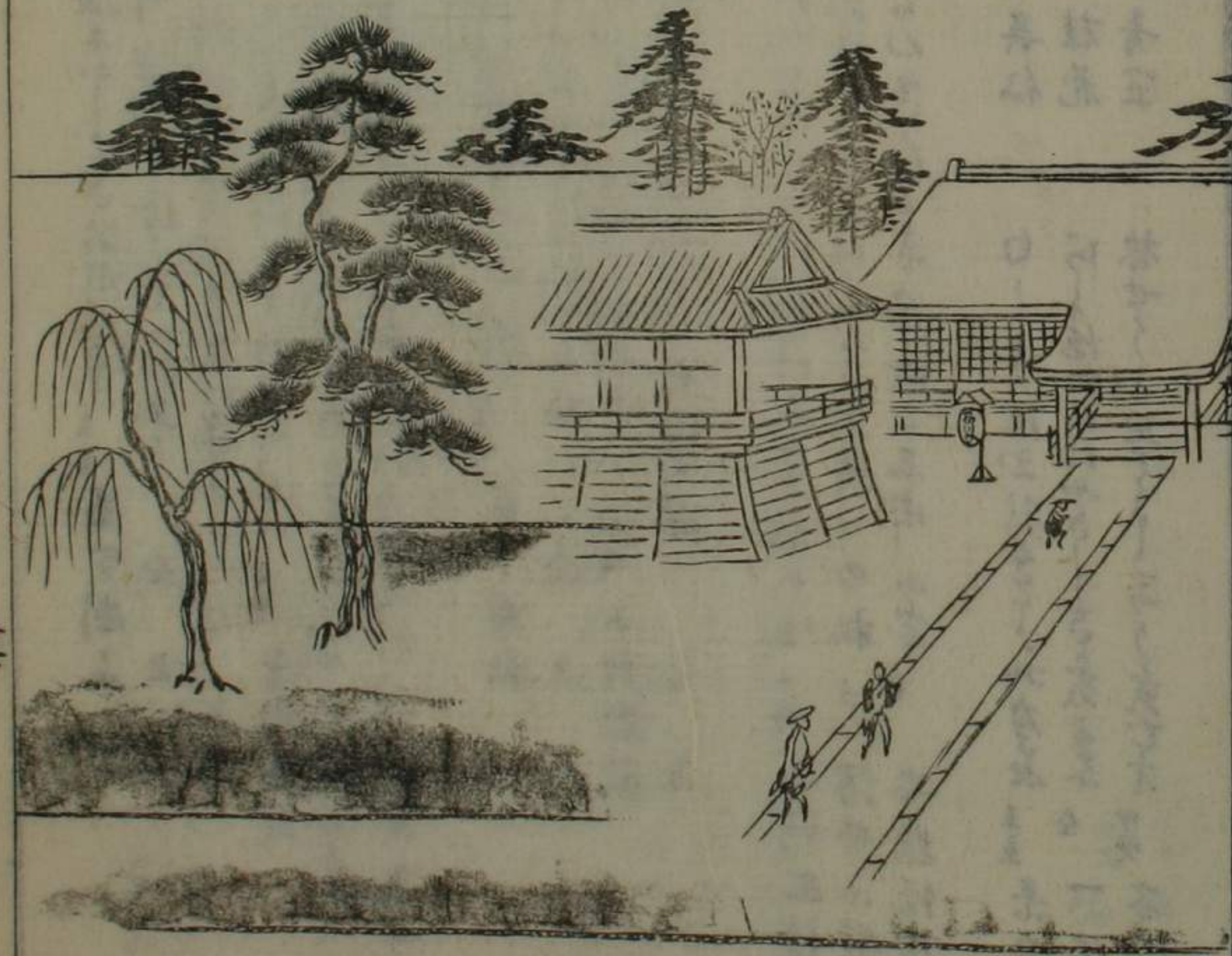
空わー

まろ

のらけ

福羽美静

夕陽山背盡。海
 面晚蒼々。月丘
 房州地。金波萬
 丈長。
 長門 布施權守



赤くも波のまじりゆくけしきも後かきこき不川の神 五末 最安園子

早振神 上 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

香舟川 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

志名の花の香 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

不川の神 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

不川の香 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

津遠くは津の船 全 志名の香舟川 涼く之流すての羽車 全 上

不梅や空の舟よりちきまき 五末 吳仙

このたぬ女坂の毛とりの空 全 桂花

名月にまらぬ梅の白ひら 全 青豆

不梅や空の舟よりちきまき 五末 吳仙

このたぬ女坂の毛とりの空 全 桂花

名月にまらぬ梅の白ひら 全 青豆

不梅や空の舟よりちきまき 五末 吳仙

このたぬ女坂の毛とりの空 全 桂花

名月にまらぬ梅の白ひら 全 青豆

不梅や空の舟よりちきまき 五末 吳仙

このたぬ女坂の毛とりの空 全 桂花

名月にまらぬ梅の白ひら 全 青豆

不梅や空の舟よりちきまき 五末 吳仙

このたぬ女坂の毛とりの空 全 桂花

名月にまらぬ梅の白ひら 全 青豆

白くは梅の花のかけし 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

津さや砂 全 梅川

洞魔堂

内藤新宿

午熱炎々燒大空。關王堂畔更無風。
欲威他界厭群鬼。又向人間有妙
通。長門 村田看雨

家化了をい崩せて了る士流彼
長門 長仙

あゝと出で居る

異一竹の匂
おほ 冷風

寺の山牛此

あゆみの

たより

下程 旭島



雀天に急了

白ひや半の魚

今上

皆う子也付

雀天に未探

今上

冬律うひ

たまら下
外や

寺乃峯

山峰 白雪

風

思

思
己らや

寺の

山

今上



今上

下卷

己丑三月宮

河野生行 画

廿九

雪の影照り日の花と思ひゆく
うらねさよ上夏蘭の窓
新煙弓の勢古れ吹く
下集袴よりそまきり
尸海にのちすき十日
生花名教候松山丘
根岸うら深井の柱をてて
拾つてえん孫の木一
嗚の胎の風ひと写し
きりしとてえれ光る雲
静に遊ゆ海の水を
重催うほさよ月のと
流し流心の彼中ら
旅立ちしに阿彌の神
けらひのちや世の亦
嘆くといひ候かねと
船をひくと思ふ遊き日

丹 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫

古に己をよる揚屋
笠と藤千鶴一休ら
鈴の音を柏子やせしむるの吹
年性佛の聖なる江戸入
一寸た解に約らるる
三年二階堂敷のある
杜宇を待つ君れ沖用
皆呂利新きの叫一滑
送つては海に伊丹の西
乱舞海に在杖黄を
る時のを疎しと月の際
ほりしと皮の削る
独りたる暑さにあき
道とて馬牛の形は
不説とてるも気色の
純子市團の煮てある
花古花舞六様ある花
松の新千保る年

菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫
菫 菫

怒顔擁笏色嚴然。此是閻王別界天。既
有愚民貪六欲。更無明母逐三遷。四時
供物呈濃色。日夜薰香起瑞烟。死後何
須遊樂國。唯宜地獄在眼前。

血の他や

つらき山の
眺まじと
上
嫌ありや
今

怒顔擁笏衆心驚。冥府商量罪案成。古
石巖壇連日暗。浄波瓊鏡四時明。刀山
百里妖雲簇。血海千重激浪轟。地獄竟
雖方便説。愚夫愚婦善心生。

太宗寺境一堂中。現出端嚴忿怒翁。神
色驍々牙齒白。眼光爛々頰顏紅。鐘
龜縮避三舍。羅刹鶴翔逃幾弓。地獄方
便尤有益。勸懲教化奏奇功。

法徒の汗の刃に深むおもひうな
整の毛も為也ややの心
今上
今上

いつもかえ
床れにかかり
編
さ

くらむむまは
ふきんはたかり

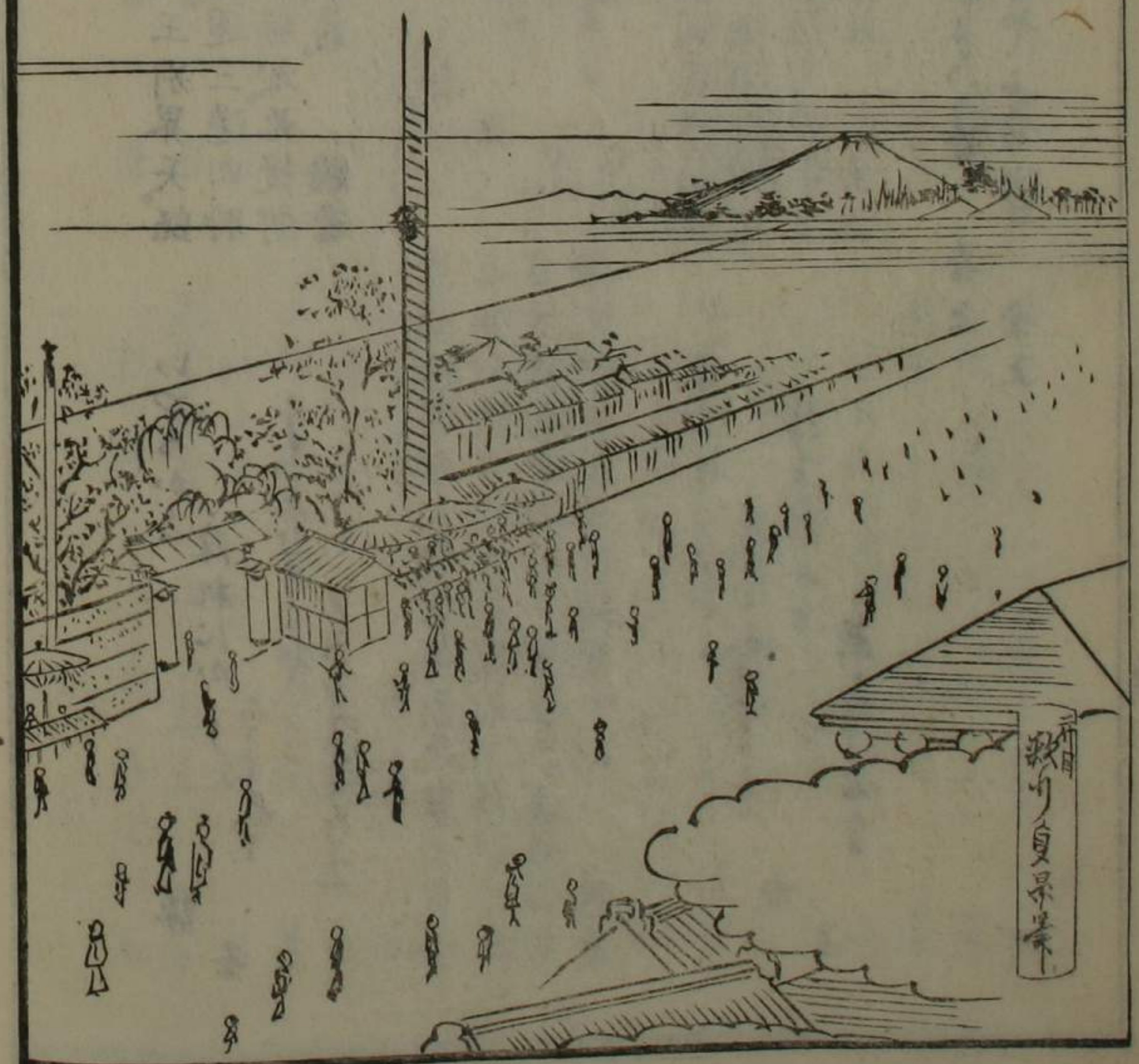
鬼を考ふんれ
今上
上

毘沙門堂

牛込善國寺

大空雨霽月
玲瓏浴後遊
人趁晚風寶
殿香烟身欲
佛喃喃禱福
磬鐘中

長門
村田看雨



せむしや此

老もそひて

花のけしみの

うるて

うら

五木
鈴木亭

炎威赫々避
無方苦熱何
堪夏日長廢
課輟吟高枕
臥晚來刺得
北窓涼

山城
木村昇齋



涼しきや人の控たし跡の月 全 金羅

晴の雲のそれも誓ひ上陸護山 全 千畝

月ありて詠め涼き枝明あし 全 素遊

梅散してしるにまきう夏の月 全 吾仙

川流をなれて涼し月と枝 全 蘆花

夕涼や秋とけせし作里 全 空鏡

陽々の

あさ

かきし

てや

能の月

鳥

氣の付ぬ

あまに

入松の

月

箱雄

涼き

夜毎

月

月の桂

金風

涼き

梅燭

灯

橋ふたつ

山世 白水

晴る

雲の

まつ

夕 駒涼

山城 水原

撥甲持矛示勸懲。冲空猛氣宛如鷹。雲長偃月猶難敵。翼德蛇槍亦不勝。七福神中殊映日。六天魔輩忽消水。威靈遍及沙門德。地上長無破戒僧。

世の市に七つ 福あふれ 編
コきて一八 四一ころりり
五

おのつ

んの鬼小

なこむう那

まらま

ませし神の塔下

左擎寶塔右持矛。印度將中威武優。民有表誠欽慧力。僧無破戒仰深籌。六魔鬼輩避三舍。七福神群居上流。佛法至今成守護。兜鍪不脱備邦憂。

勇一き

井の清に

んの鬼小

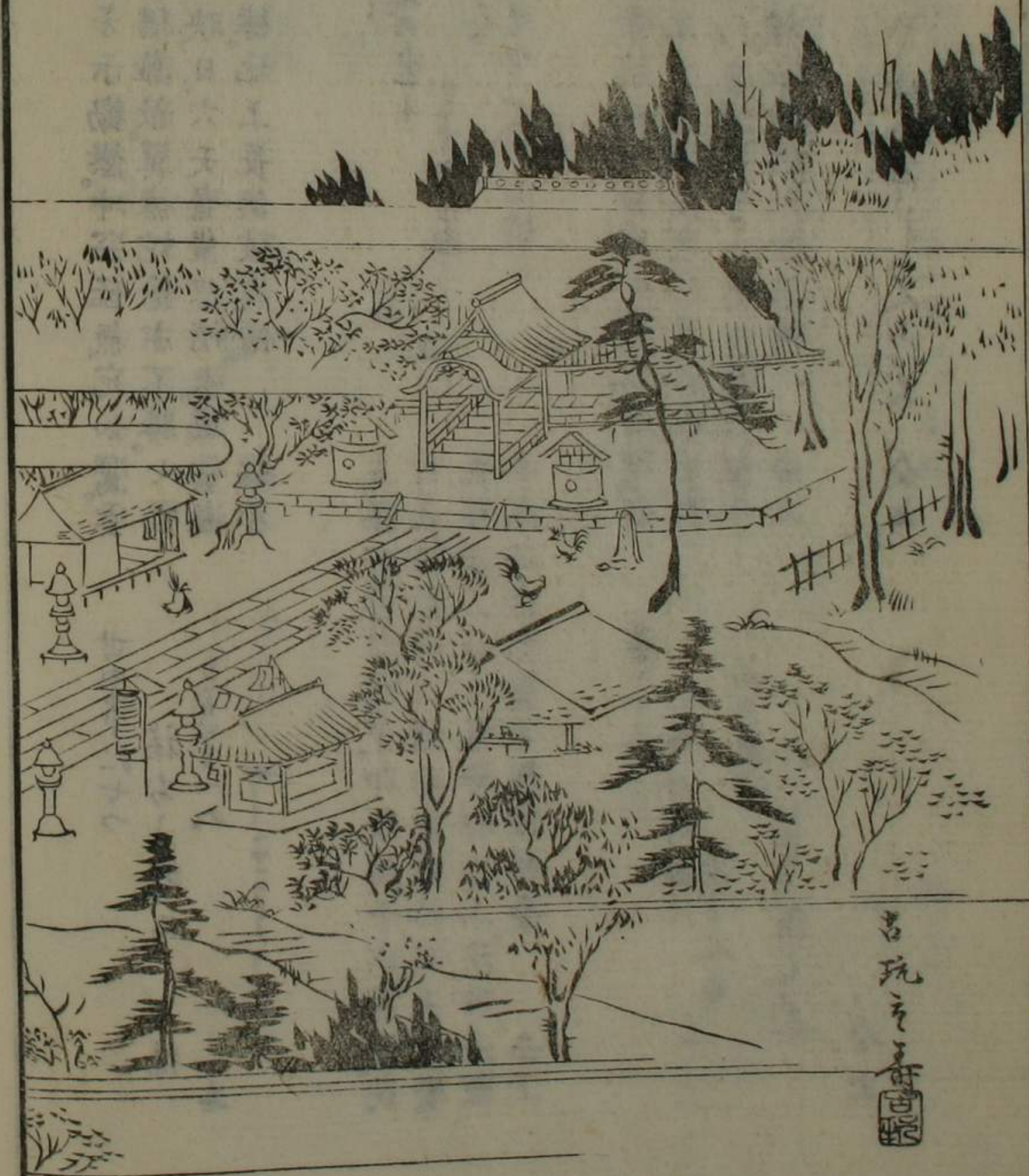
いかしおら

全上

寶塔高擎信益增。尊加天字豈虛稱。邪魔鎮壓為心腹。佛法堅持具股肱。容貌堂々驕似虎。威風凜々氣如鷹。戎裝不

是因軍備。欲救續紛墮落僧。

神 母 子 鬼 谷 司 雅



昌玩之印

秋社放晴神鼓
喧野人來
祈得兒孫稻
梁豐熟新醪熟
旆影高抽黃葉村
長門村田看雨

香夜蕭々聽雨聲
朝來却喜奏新晴
亮公亦是如憐我
幸止風光是此櫻
山城木村昇齋



千金の月を替はれ梅の花 五言 全羅

冷—さし眺ものき月と風 五言 長仙

送軍や梅の本の月を梅棹 五言 全上

各梅やおにほふと花の色 五言 浩堂

一室といふと庭なき梅哉 五言 宗鏡

ひと吹の風船こゆる庭なき哉 五言 梅舟

風いすこ梅の白ひや 五言 初梅 編雄

かこ梅の人や梅にさす 五言 初梅 冷風

さすかこ人此まらるや 五言 初梅 如月

祠邊連店有青娥。酒餅相呼笑語和。鬼子母神兒鬼
少。雜司个谷雜司多。巍々堂殿消三毒。鬱々松杉掃
百病。賽客朝宵來去外。風流韻士亦經過。 編者

愛子真情世界同。即知天性古今通。亭々喬樹蔽平
地。轟々高堂聳半空。楊柳纖柔風孃娜。陰雲黯淡月
朦朧。朝宵石婦如狂者。蠅集求兒鬼母宮。 編者

東西南北客縱橫。夜詣朝參鬧可驚。陸續頑夫逃天
死。連綿石婦禱胎生。堂隣兮目白精舍。地接矣高田
馬場。鬼子母神非鬼母。慈悲海嶽愛兒情。 全上

松不子也

花堂

さつりふ

小春哉

全上

世の市に子孫かあきものいな 全

け非のるりけふはて 上

子を扶ぬ人の心は憐あり 全

まほまをえふに付ても 上

ねました話つる人のおほきうねた子と折つつん 全上

吾素々茶

子格



むさし

堅也

あつはつ

あつはつ

限なと

茶

照秋の

松平

あつはつ

廣小

与田三右衛門兼光
照秋の松平の月
猶葉正邦

むさし堅にいて
あつはつ月の影
くはるるるるるるるる

全

吉川順子

遺烈千秋渥不縑。靈蹤來仰白雲陞。
東風驀地吹花急。憶得錦裳投海時。
東京 伊藤橋庵

青田十里接蒼穹。且嘉如斯野望通。
欲就林亭催一醉。又看村落酒旗風。
山城 木村昇齋

薰風待得雨初晴。耕去平田水漲盈。
村落秧歌聞不聒。今秋化作擊壤聲。
長門 布施權宇

佃島

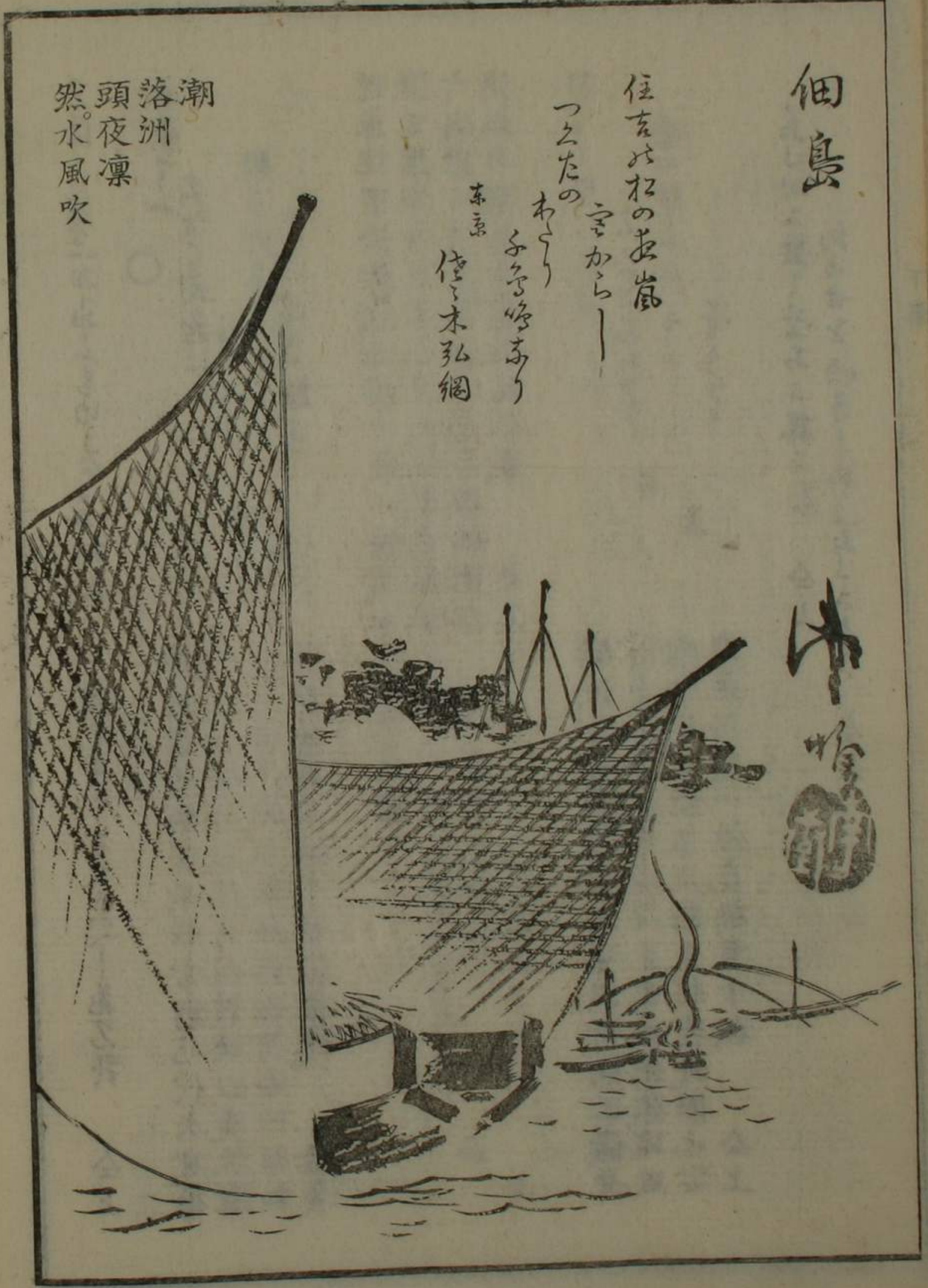
任吉此松の松嵐

つたの
あつたの

子子修あつた

本末弘網

潮洲
落洲
頭夜凜
然水風吹



舟
嶋

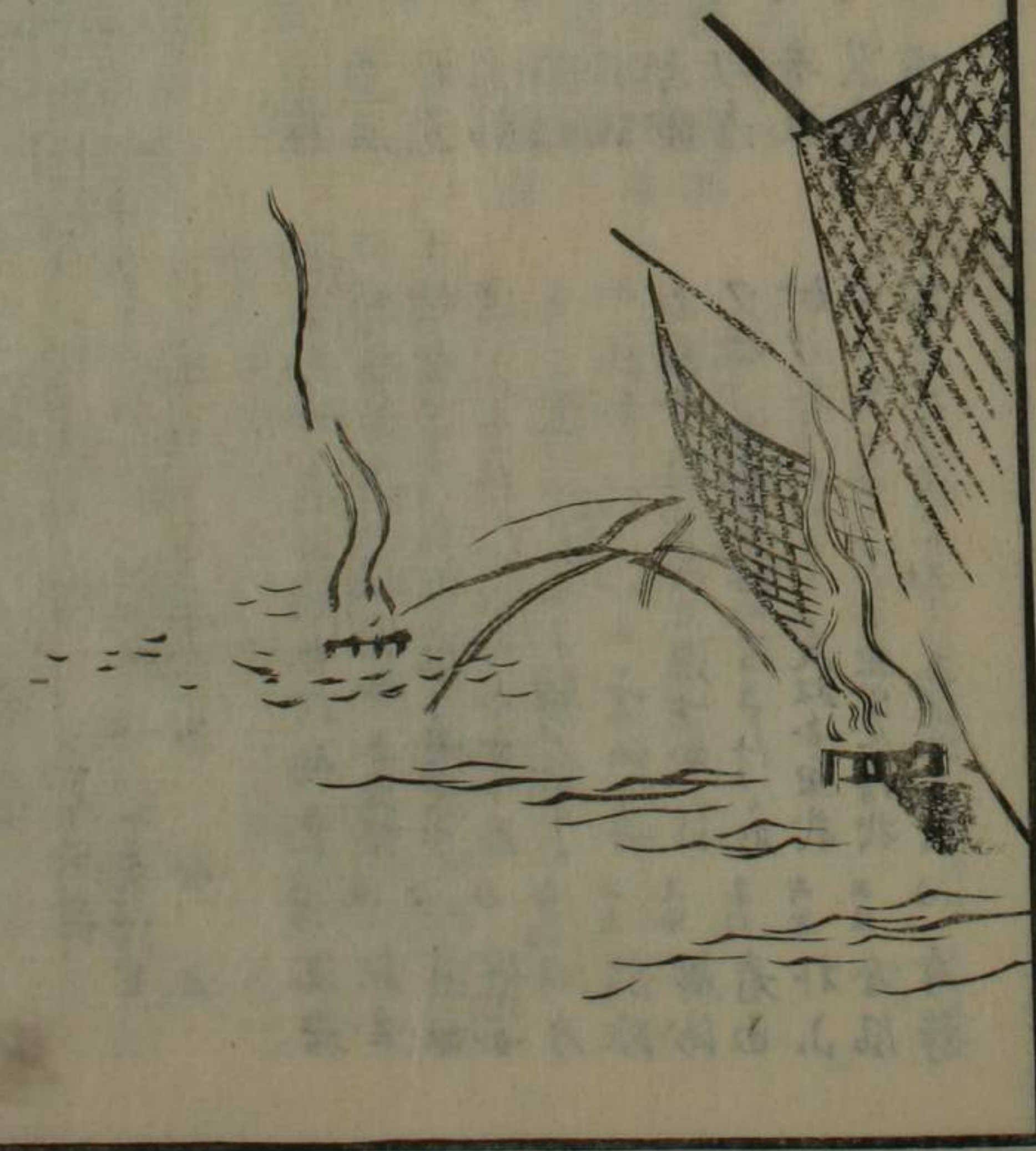
月影相牽。方
知白小供厨饌。
萬點漁篝燒海天。
東京 伊藤橋庵

丸まら星とさそく嵐や佃島
ひまわりそと海ふりし

溶々春水蘸漁家。渚草風香
隨處花。昨夜釣翁初報喜。一
簑烟雨長魚鰕。
長門 村田看雨

念魚や遊と
とろろく流し
五玉全
羅

襲食一夜奈寒威。果見今朝玉屑霏。獨擁紅
爐風景愛憐他。凍雀入簾幃。山城木村昇齋



さくらもいてあなかなし佃魚あけしきとてすゝめを 戸田 出

佃魚あけしきとてすゝめを 全 上

おきく波よりすゝめ風になをさす 佃魚あけしき 全 上

三つもすゝめにうもまて冬の日はあつ 佃魚あけしき 全 上

佃魚市海に住すあまの佃魚あけしき 石崇迅男 全 上

つとくすゝめ白魚あけしきかきりてすゝめ花とすゝめ 全 上

佃魚の白きもありまのいる 三木雄

まゝ魚や腹の糸をさす 全 上

白魚やまなまの海一 桂花

沸く形といふ之ぬ魚も 異仙

朝風や魚佃干す軒並み 詩竹

魚の白にまきいあきり白魚 松嶋

魚やまのまの世の魚も 全 上

白魚やまのまの世の魚も 全 上

魚やまのまの世の魚も 全 上

魚のまらきに智く人くら 全 上

漁や魚やちの行のふく照る 全 上

佃魚やまの風味は佃魚 満原

明け月を舟へ籠りや魚佃 全 上

佃魚あけしき魚佃や舟の市 全 上

深つけの世の白ひも魚も 全 上

魚やまのまの世の魚も 全 上

魚やまのまの世の魚も 全 上

夕涼 袂勢も採のなきけり 全 上

夕涼 袂勢も採のなきけり 全 上

夕涼 袂勢も採のなきけり 全 上

夕涼 袂勢も採のなきけり 全 上

夕涼 袂勢も採のなきけり 全 上

とらふの力くへやまをけ 小原

塔らら向了涼 き路く末 桃川

朝曦出海々波紅。佃島雖孤物自豊。黒
艦擬鯨々黯澹。白魚欺玉々玲瓏。砲臺
直對顔前峙。幡社斜看眼底通。快意十
分人識否。一郷杳在別天中。 編者

序 巻 終りに

句 佃 魚

白 魚

佃 魚

小々蓬萊路不通。碧波環島渺無窮。衝
天檣艦似龍俊。踞海砲臺如虎雄。整矣
堪看新市店。巋然可仰古神宮。撒罾聲
迸漁舟側。潑刺銀鱗忽入籠。 全 上

魚 佃 魚

魚 佃 魚

魚 佃 魚

魚 佃 魚

魚 佃 魚

魚 佃 魚

傳來佃島別般郷。墨水溶々匝四方。法
直大京懲役艦。工精平野造船場。砲臺
如虎兵威盛。軍艦似鯨英氣張。別有高
名漁獵品。玲瓏欺玉白魚光。 全 上

新吉原

うかすれり
もひらき
うかすれり

梅一様も色
ふかりき
不主

井上正直

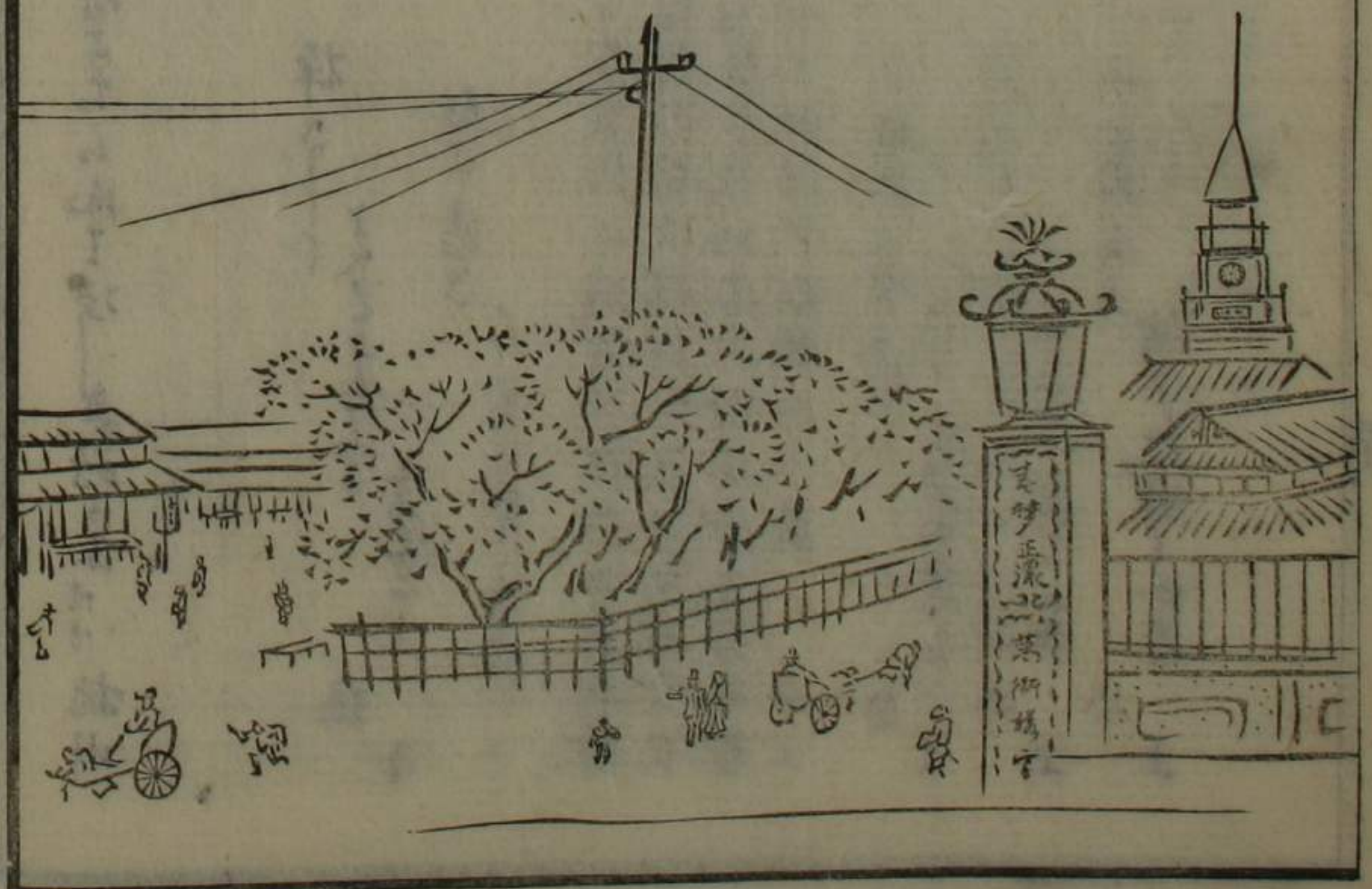
うかれり

かこし松も
かこし松も

梅や以梅の香

今 増山洋子

瓊樓玉閣與雲齊。儘掣電光輝
碧輝。白意黃情春可買。東方又
見小巴黎。
今 伊藤橋庵



豪放早遭詩酒侵。枯腸聊復試
破鍼。老來無夢臻花柳。空問五
街春淺深。
今 上

又五つ

梅のいとし

つふかき

丹後 牧野作本

哀きありけ
春風ふたのる
今 湖 月

袖をりて
戸小入る
今 大



酩酊狂態笑言譁。醉著中街一片霞。
真是劉郎應未見。無情解語兩般花。
多是懦愚不省身。黃金已盡手難分。
滿街燈火明如晝。誰識人心暗似雲。

花松のを居てりや燈生れ
老もよーやとー京の里
斗後 牧野化生

嗚呼小極も恋の作の何
老もよきもほこり世にけり
全上

燈火に松のをよー原や
老のよさくもんひか身さ
全上

解語花盈新吉原。買春遊客欲消魂。
知否巫山仙夢裡。人間別有廢娼論。

下総 石井頼水

花を中かききたるる花の
糸にひかたて花よー京

老を了魔とてよまたとやわの
百ゆかきたるる花の蔭
全上

夕べのよきも通て乙吉原は
色香にあけ花の木蔭平
全上

花魁綴玉是春妍。又有紅裙弄管絃。
若使狀元遊此地。留連惑作醉中仙。

春風吹送玉人來。纖手多情勸酒杯。
我醉陶然時假寐。耳邊媚呼亦佳哉。

花をよー京の思のたれこに
老の舎此あま月一か
全上

東条 迫藤彦植

眉化了紅一の春柳に
いとくんのなひん春の那

よー京のよきの花のたよ那
かこー花のよきもひて花の
全上

當年誰闢別乾坤。箇大郭門同洞門。
告朔餼養存舊式。新芽原即古芳原。

武藏 嵩 古香

花の影ふむよー京の旬
長門 大津唯雪

春風香滿萬櫻鮮。一刻貪眠北郭天。
忽盡囊錢且大笑。醉餘跨馬着歸鞭。

上総 井上聚芳
月夜も花にあまうるる京我
世の人のころ花柳のさきり

花をよけたりよ花のたよ那
花よきもよー京の里
全上

燈殘酒冷坐深闥。簾外無風淡霧迷。
柳眼花鬚看不見。朦朧影在画樓西。

長門 布施權宇

花たりよ新よー京の春柳に
糸にひかたてよとひい
山城 小村端敬

若人の志丹きよとて春柳に
新よー京の風よ花
全上

花をよけ老を花とちよ那
新よー京の風よ花
全上

梅の香や狼狽もよわたま生
こちやらや吉原の燈も花の若
全上

花をよけよとよ京の花よ那
全上

人豆のふり 影なき燈籠哉 不夜 待竹
夜のなき服も通しあり遠極 全 松塙
紅さして梅も花さる 全 桂花
人止み花吹雪 夜の月 全 青芥
明の陸の音は 全 陸の音 全 看面
紅梅やたよりなき美 全 陸言
折るを 全 夜 全 空の梅 全 号朗

燭光欺畫徹宵明。即是芳原不夜城。汗
馬似飛人出沒。驅車如織路縱橫。金消
酒底有窮貨。花發店頭無限情。誰識巫
山雲雨夢。散為妻子痛歎聲。 編者

燈籠や梅は 不夜 松風
了人 不夜 弄山
眼 不夜 全上
梅 不夜 蘭石
吉 不夜 月雅
夕 不夜 全上
送 不夜 松圓
風 不夜 全上
本 不夜 全上
百 不夜 全上

松梅誘 不夜 全上
引 不夜 全上
三 不夜 全上

不夜城中銀燭涵。管絃絲竹帶芳嵐。大
娘笑處意先蕩。少婦媚時心既耽。昨日
番々誇錦繡。今朝綴々愧樓檻。回頭薄
命令神泣。孝女汚身不孝男。 全上

銀燭光々徹曉明。梅櫻時節最繁榮。南
威羞醜避三舍。西子失嬌逃百城。解語
花開樓上下。忘身客路縱橫。若沈慾
海浮難得。堪憫遊郎誤一生。 全上

別界曾存不夜城。名娼妙術客魂驚。誓言俄變虛言
偽。假淚忽為真淚誠。夫婦豈如連理契。弟兄猶勝水
魚情。誰知翠帳紅閨夢。散作田園賣了聲。 全上

現出梅林月影橫。觀人如織更添榮。滿街香氣濛々
暗。連戶紅燈的々明。解語花舒仙境景。迦陵鳥轉梵
天聲。懇歎說與青年客。眉斧終能斫鐵城。 全上

花
紅
燭
連
檐
炫
眼
新
解
語
花
慙
無
語
物
無
情
樹
勝
有
情
人
風
前
五
里
光
裝
寶
月
下
千
重
色
耀
銀
只
恐
淫
鄉
傷
節
操
不
如
栽
柳
易
牽
春
編
者

仲街現出萬梅勻。紅燭連檐炫眼新。解語花慙無語物。無情樹勝有情人。風前五里光裝寶。月下千重色耀銀。只恐淫鄉傷節操。不如栽柳易牽春。 編者

女閣門內萬株梅。也向春風獨占魁。冉冉香先傳喜氣。斜斜影自引清埃。迷夫似夢拋金去。遊客如狂破產來。傾國古言猶可信。貧家又況易輕財。 全上

續東京名勝畫詞下卷終

明治廿三年八月十日印刷
今年今月十五日出版

定價金六十錢

編輯者

增山守正

京都府士族
東京市神田區駿河臺
鈴木町十六番地寄留

發行兼
印刷者

增山持正

右全族全番地寄留

彫刻 山口武勝

發 賣 書 肆

東京市日本橋區通旅籠町

小林八郎

全 京橋區南傳馬町

目黒十郎支店

全 區 全 町

辻本九兵衛

京都三条通寺町東石橋町

福井源次郎

大坂市南區心齋橋南

松村九兵衛

京都三条通り西入ル

杉本甚助

横濱市尾上町三丁目

田沼書店

神戸市相生橋東詰

熊谷幸助

長壽市引地町

鶴野書店

札幌市南一条西貳丁目

前野長發

